

第 2 章 高齢者の現状と将来推計

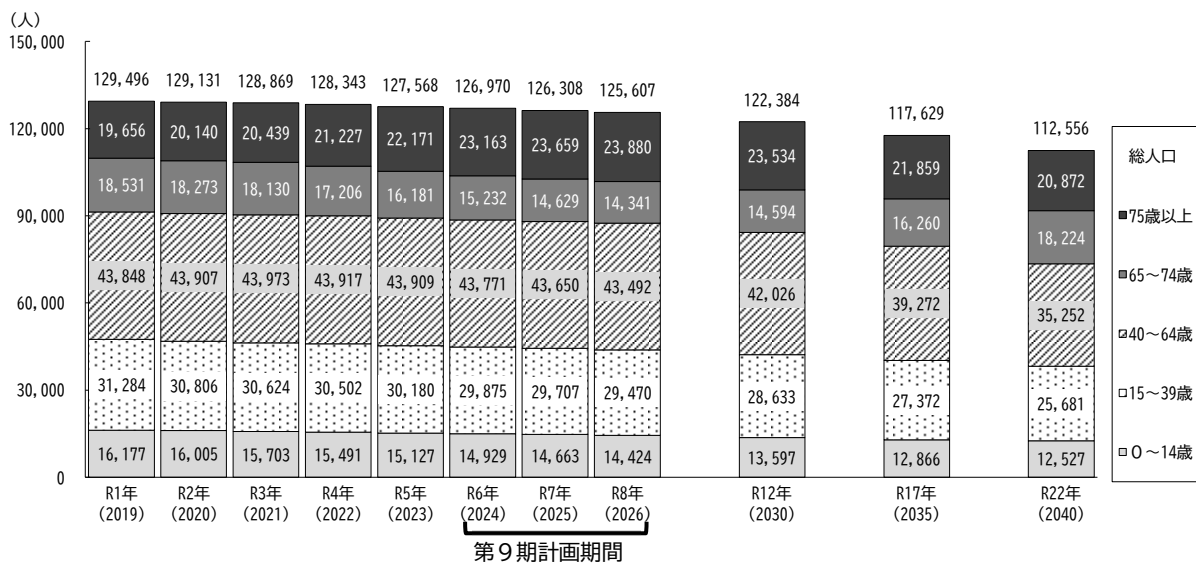
1. 人口・世帯

(1) 総人口及び高齢者人口

本市の人口は令和5(2023)年10月1日時点で12万7,568人となっており、近年は緩やかな減少傾向が続いています。一方、令和5(2023)年の高齢者人口は3万8,352人、高齢化率は30.1%となっています。

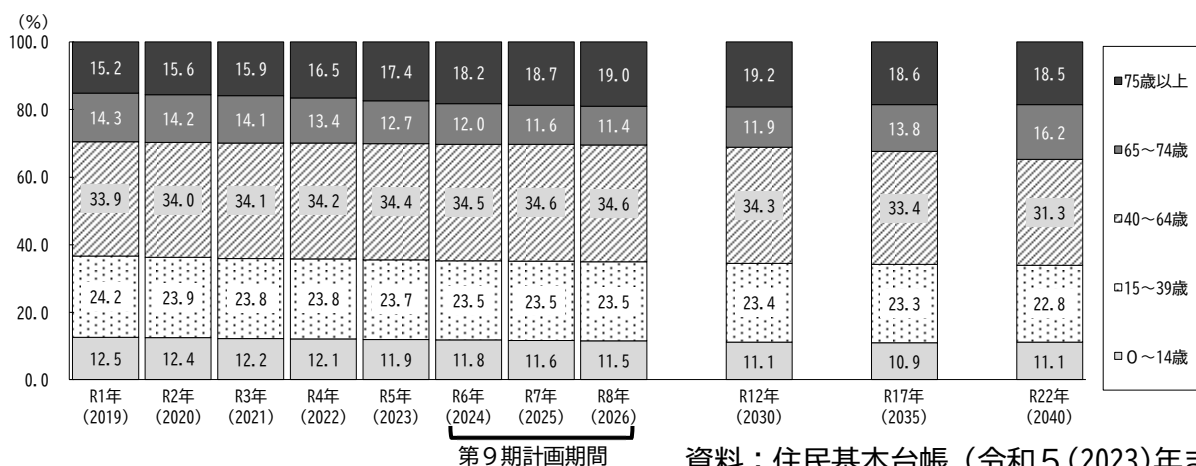
平成30(2018)年から令和5(2023)年までの住民基本台帳の年齢別人口の変化に基づくコーホート変化率法によって、将来人口を推計したところによると、第9期計画期間中は65歳~74歳人口の減少と75歳以上人口の増加が見込まれており、高齢化率は令和8(2026)年には30.4%、令和22(2040)年には34.7%となる見込みです。

■年齢5区分推計人口の推移（※各年10月1日時点、令和6(2024)年以降は推計値）



資料：住民基本台帳（令和5(2023)年まで）

■年齢5区分推計人口割合の推移（※各年10月1日時点、令和6(2024)年以降は推計値）



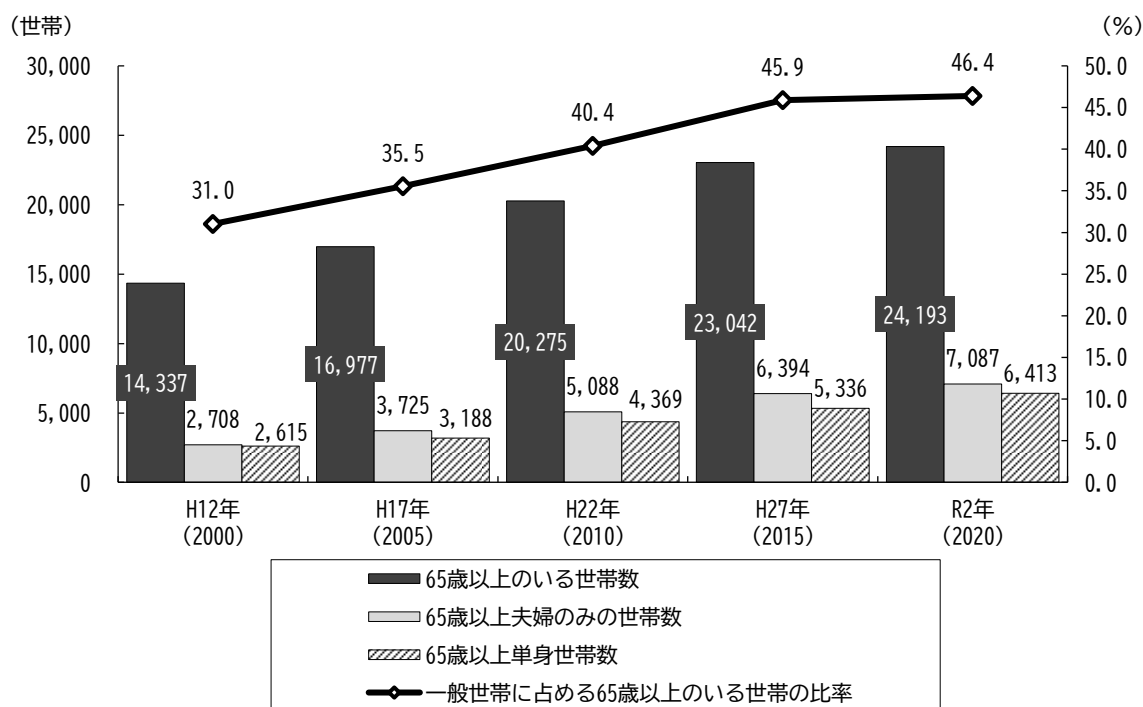
資料：住民基本台帳（令和5(2023)年まで）

※グラフの数値は、四捨五入により合計が100.0にならない場合があります（以降同様）。

(2) 高齢者世帯

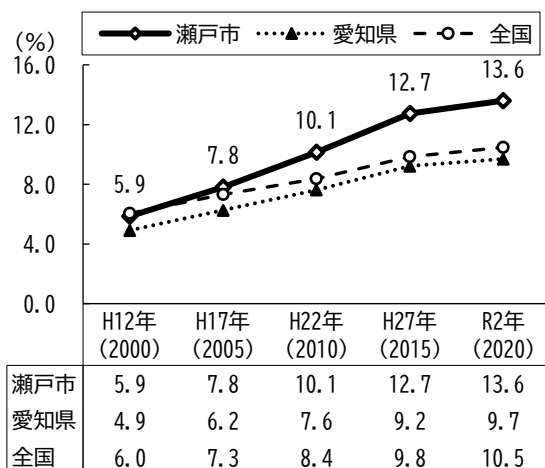
本市の高齢者のいる世帯、高齢者夫婦のみの世帯及び高齢者の単身世帯はいずれも増加が続いています。また、一般世帯に占める高齢者夫婦のみ世帯は国・県を大きく上回っており、高齢者単身世帯の割合も国・県より高くなっています。

■高齢者世帯の推移

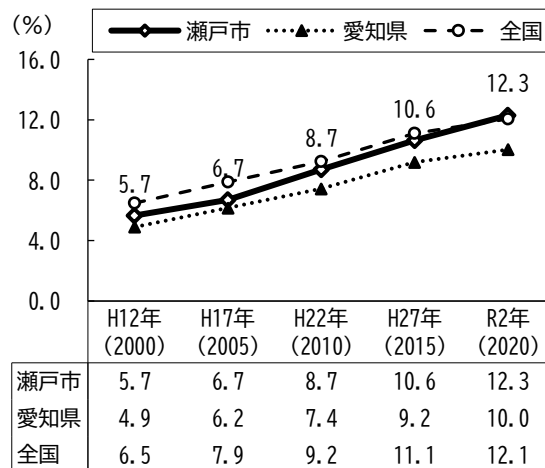


資料：国勢調査

■一般世帯における高齢者夫婦のみ世帯の割合



■一般世帯における高齢者単身世帯の割合



資料：国勢調査

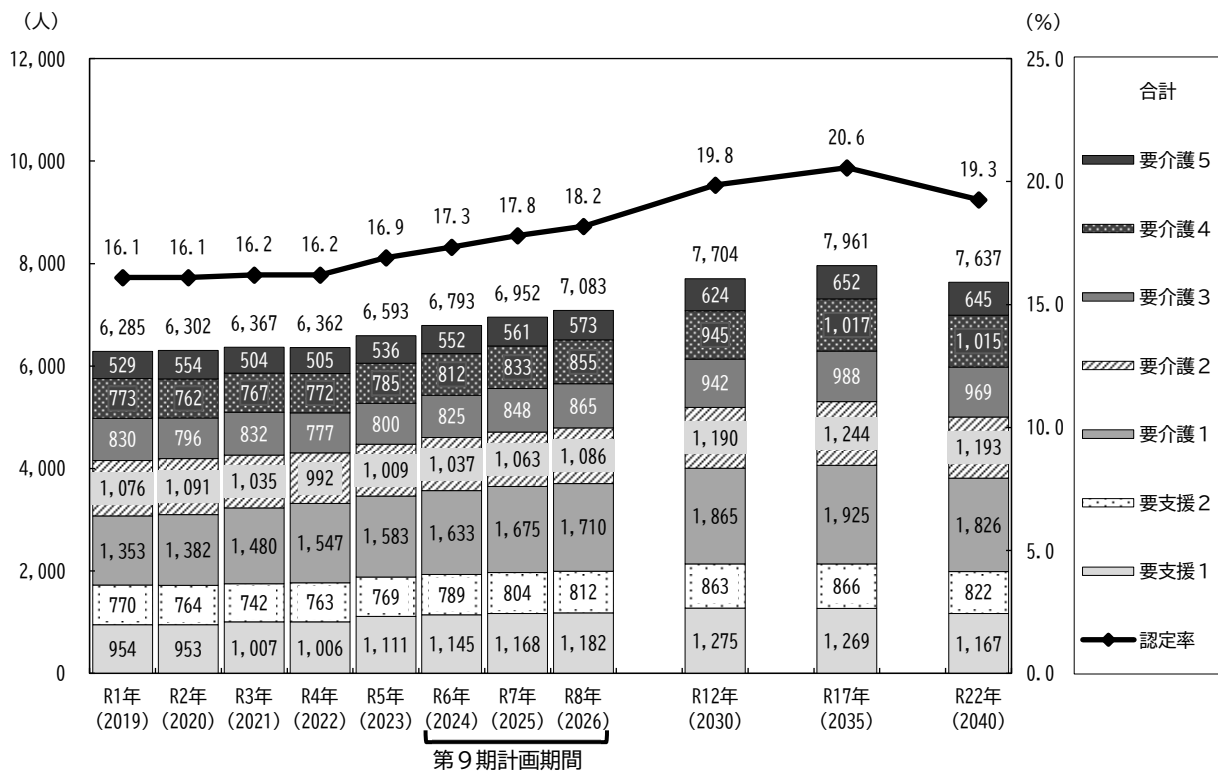
2. 要介護認定者数・認定率

(1) 認定者数の推移と将来展望

令和5(2023)年9月30日時点の本市の要介護(要支援)認定者数は6,593人で、令和4(2022)年までほぼ横ばいで推移していた認定者数が増加に転じています。今後は75歳以上人口の増加に伴い、令和17(2035)年ごろまでは認定者数が増加していく見込みです。

認定者数の増加に伴い、第1号被保険者(65歳以上の方)の認定率も上昇していくことが予想され、令和17(2035)年には20.0%を超える見込みとなっています。

■要介護度別認定者数の推移と将来推計(各年9月30日時点、令和6(2024)年以降は推計値)



※推計期間における認定率は65歳以上人口に対する認定者数の割合で算出しています。

資料：介護保険事業状況報告(令和5(2023)年まで)

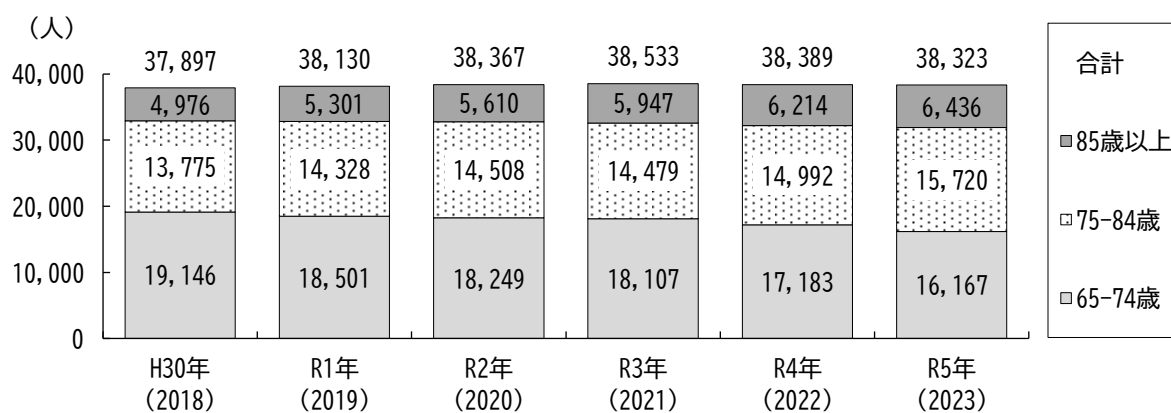
3. 介護保険事業の状況

(1) 第1号被保険者数と認定者数

第1号被保険者数はほぼ横ばいで推移しており、近年では75～84歳、85歳以上が増加しています。団塊の世代が75歳以上になりつつあることから、65～74歳は減少傾向となっています。第1号被保険者の認定者数は、近年はほぼ横ばいでしたが、令和4(2022)年から令和5(2023)年にかけて230人の増加となっています。

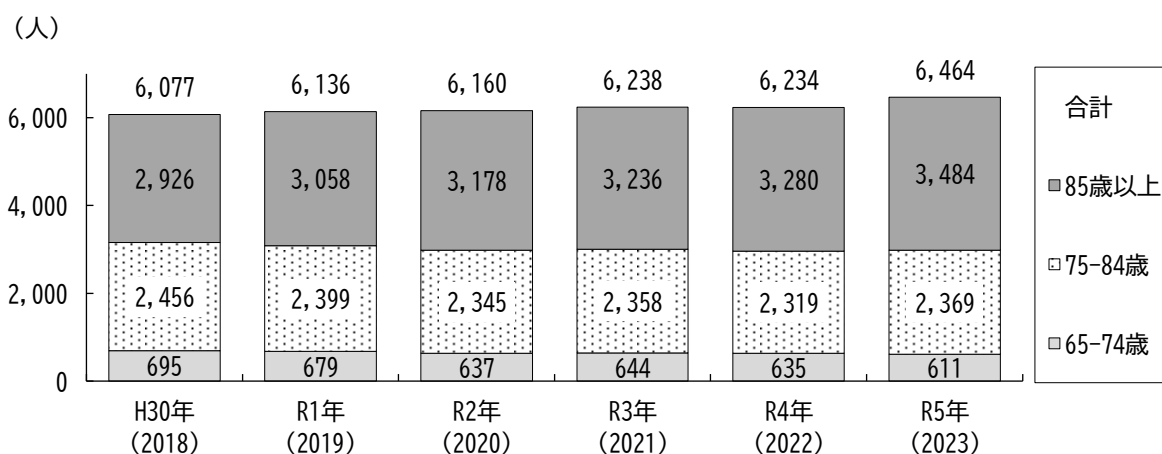
年齢別の認定率は、高齢の世代ほど高く推移しています。認定率の高い85歳以上の人口が増加していることから、第1号被保険者全体の認定率は増加傾向となっています。なお認定率は国・県と比較すると低く推移しています。

■年齢別第1号被保険者数の推移（各年9月30日時点）



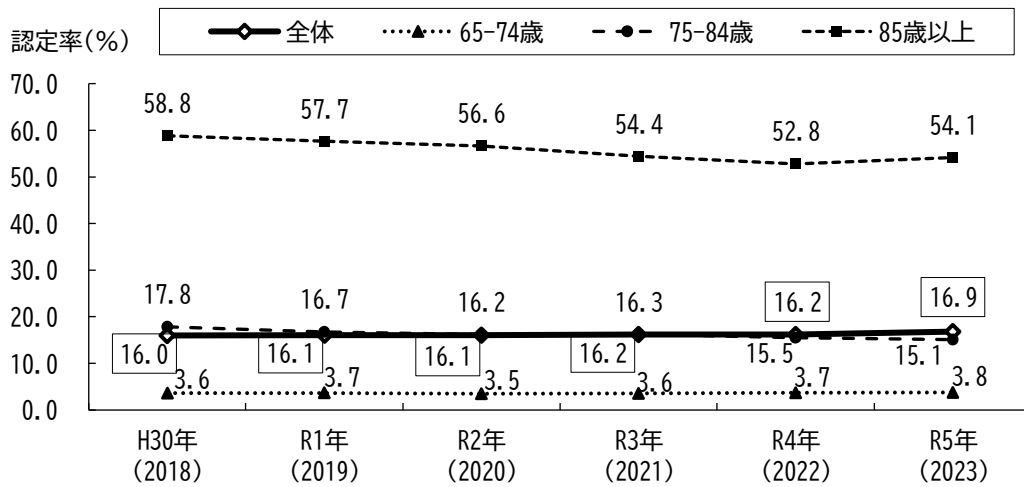
資料：介護保険事業状況報告

■年齢別要介護認定者数（第1号被保険者のみ）の推移（各年9月30日時点）



資料：介護保険事業状況報告

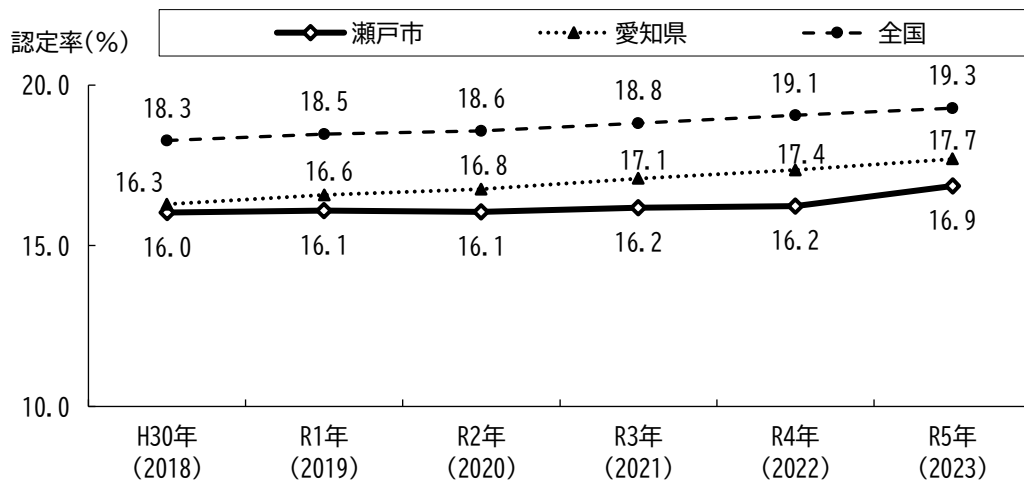
■年齢別認定率の推移（各年9月30日時点）



※認定率は各年齢区別の第1号被保険者数に対する認定者数の割合で算出しています（以降同様）。

資料：介護保険事業状況報告

■第1号被保険者認定率の比較（各年9月30日時点）



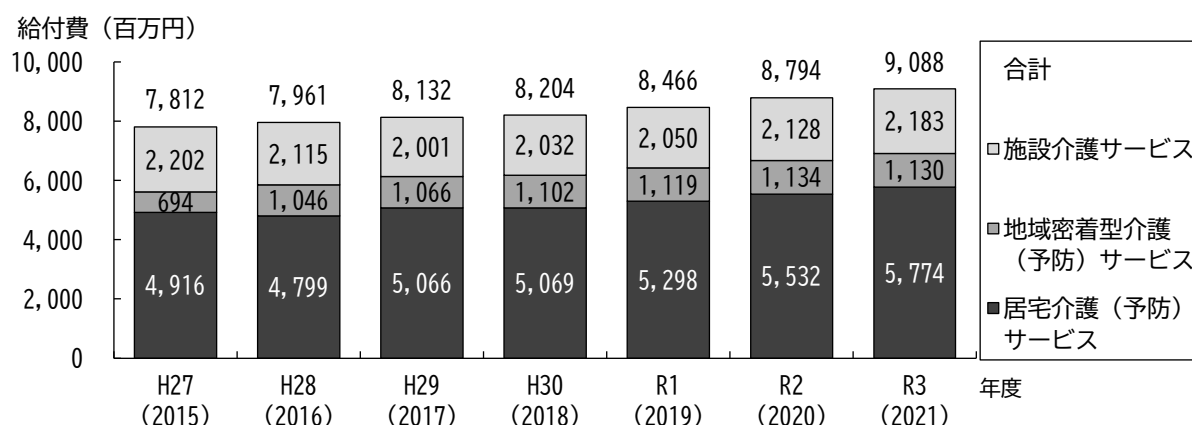
※認定率は第1号被保険者数に対する認定者数の割合で算出しています。

資料：介護保険事業状況報告

(2) サービス別給付費

介護保険サービス給付費については、全体では増加傾向となっています。サービス別給付費の割合を国・県と比較すると、本市は施設介護サービス、地域密着型介護（予防）サービスが少なく、居宅介護（予防）サービスが多くなっています。

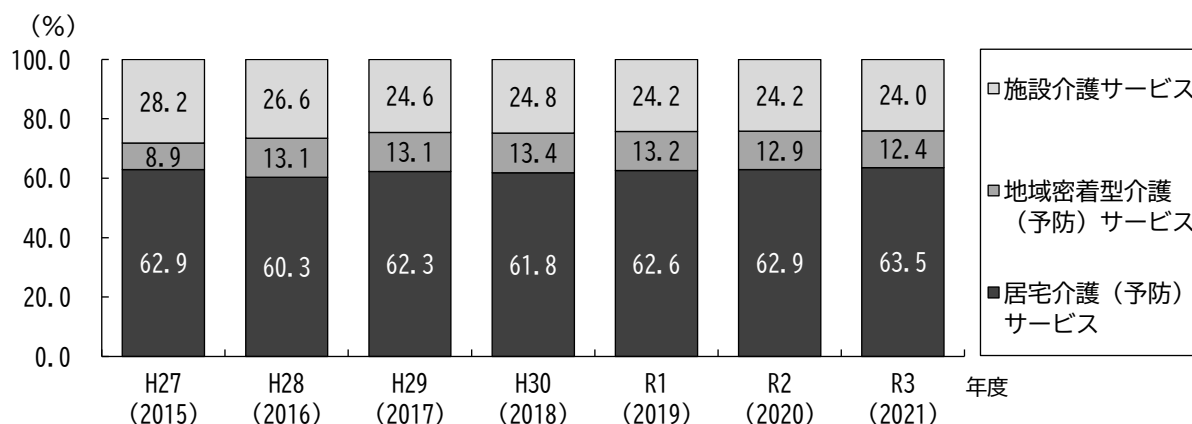
■介護保険サービス別給付費の推移



※グラフの数値は、小数点以下の四捨五入により、合計が合わない場合があります。

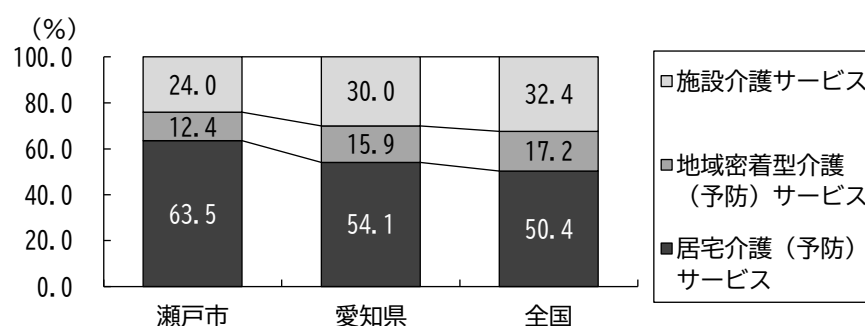
資料：介護保険事業状況報告

■サービス別給付費割合の推移



資料：介護保険事業状況報告

■サービス別給付費割合の比較（令和3（2021）年度）



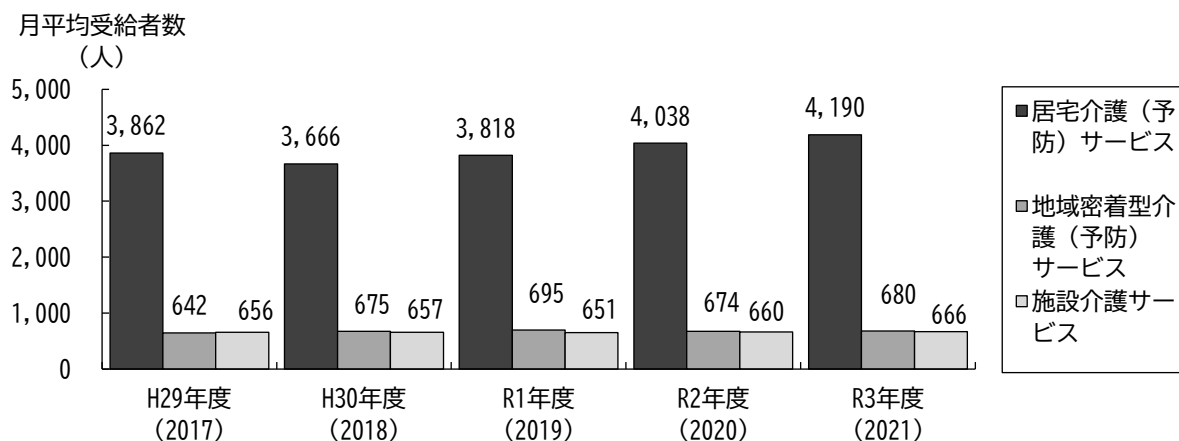
資料：介護保険事業状況報告

(3) サービス別受給者数

サービス別の受給者数は、居宅介護（予防）サービスが増加傾向、地域密着型介護（予防）サービス、施設介護サービスはほぼ横ばいで推移しています。受給者一人当たり年間給付費は、居宅介護（予防）サービスが最も少なく、施設介護サービスが最も多くなっています。

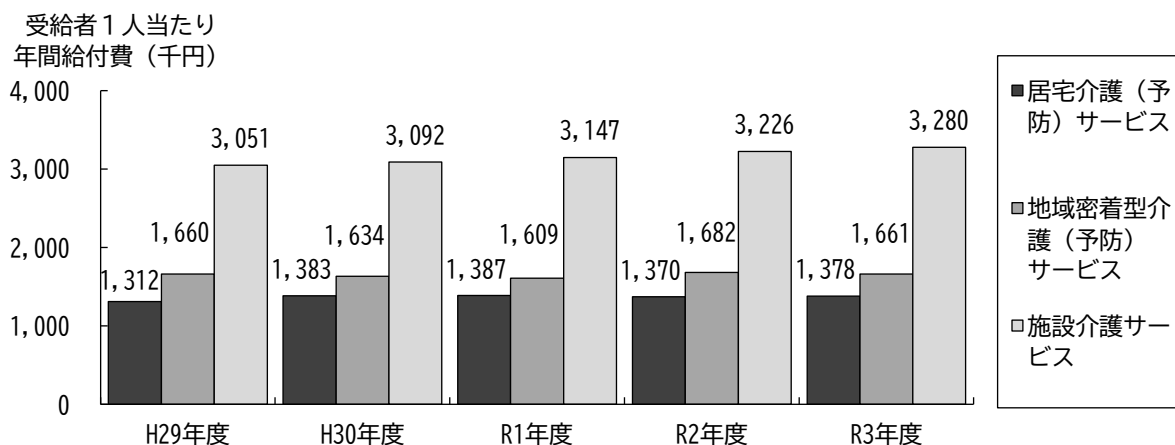
受給者一人当たりの年間給付費を国・県と比較すると、本市は居宅介護（予防）サービスの給付費がやや高く、地域密着型介護（予防）サービスの給付費が低くなっています。

■サービス別受給者数の推移



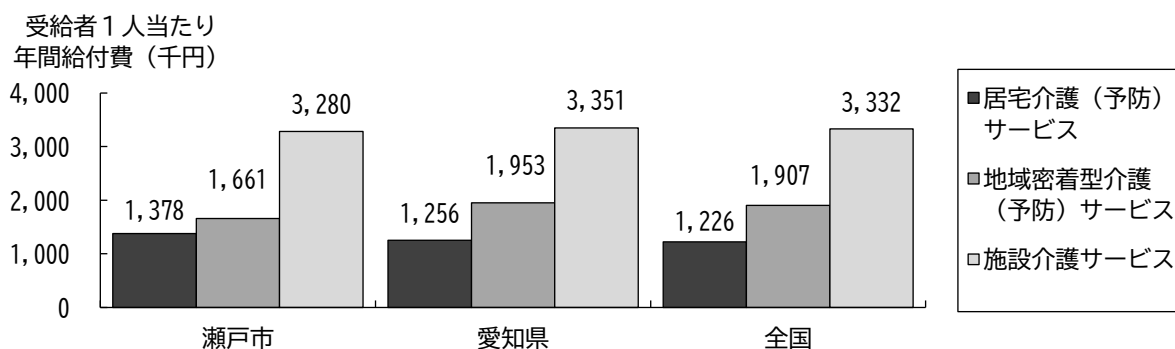
資料：介護保険事業状況報告

■受給者一人当たり年間給付費の推移



資料：介護保険事業状況報告

■受給者一人当たり年間給付費の比較（令和3（2021）年度）



資料：介護保険事業状況報告

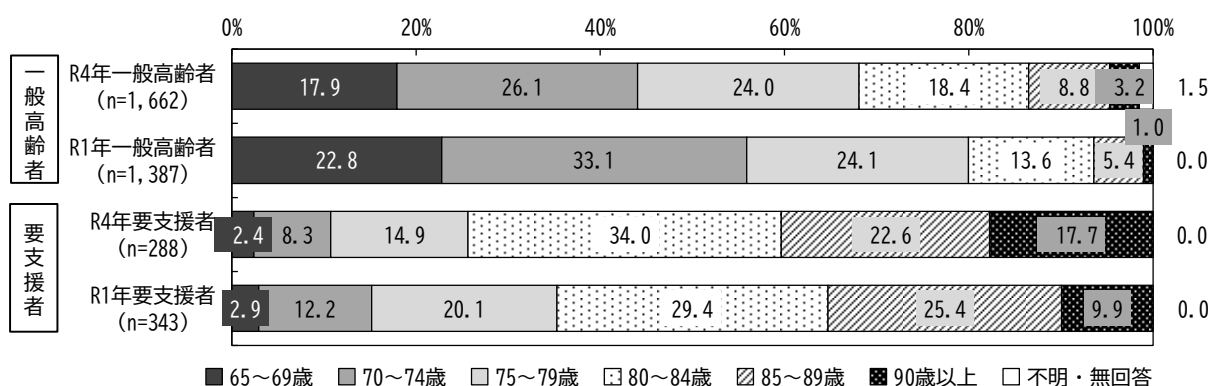
4. アンケート調査に基づく本市の課題

(1) 支援の必要な高齢者の増加について

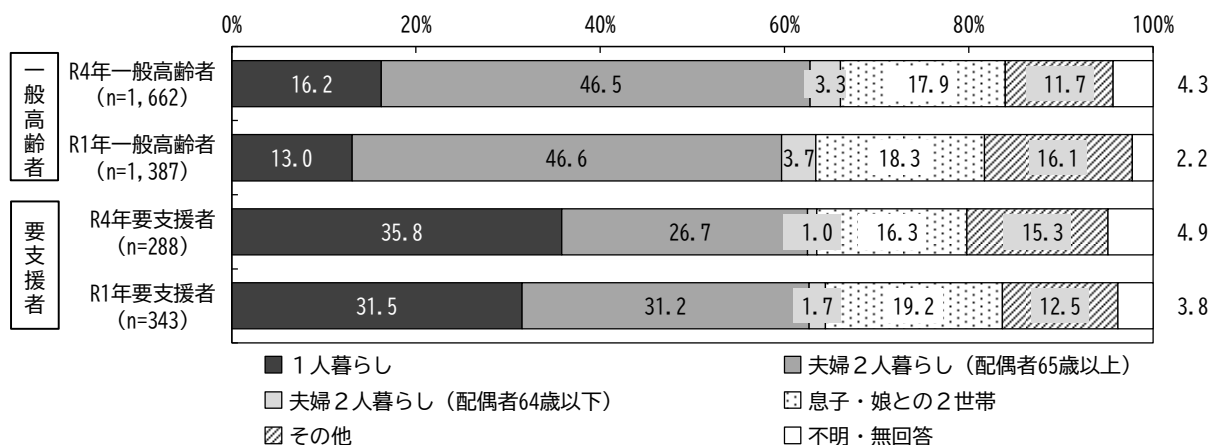
◇一般高齢者、要支援者（要支援1・2の認定を受けている人）を対象とした調査では、本市の高齢者人口の年齢構成を反映して、前回調査より年齢構成が高齢化しています。

◇家族構成についても、一般高齢者、要支援者ともに「一人暮らし」がやや増加しています。

■年齢（令和4（2022）年12月1日現在）をお答えください。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



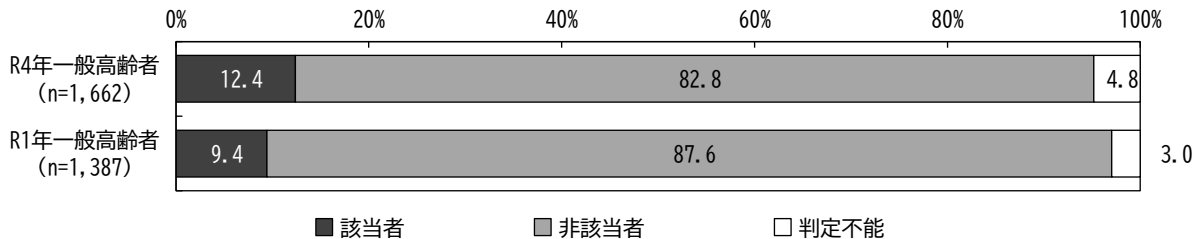
■家族構成をお教えてください。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



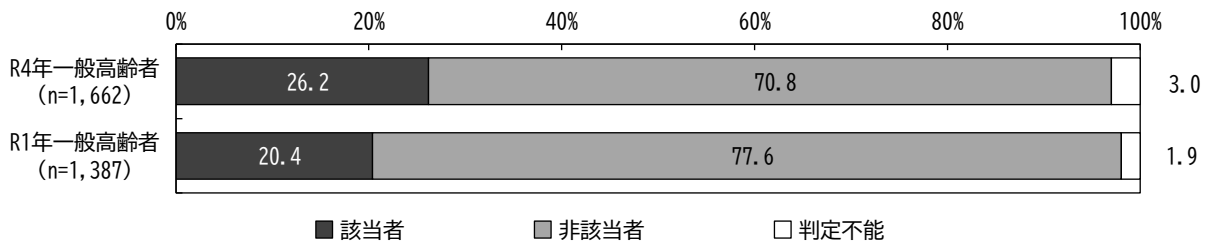
◇要介護リスクの状況について、運動機能の低下、口腔機能の低下、低栄養リスクのいずれも、前回調査より該当者が増加しており、身体機能や生活状況に課題のある高齢者が増加しています。

◇日常生活で困っていることについて、「特に困ることはない」が減少しており、何らかの困りごとを感じている人が増加しています。

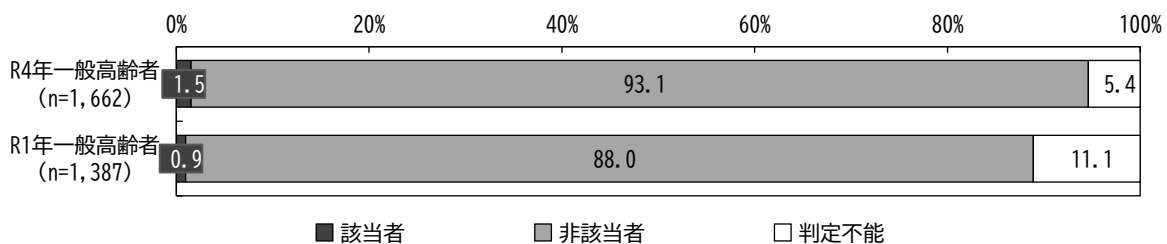
■運動機能の低下リスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



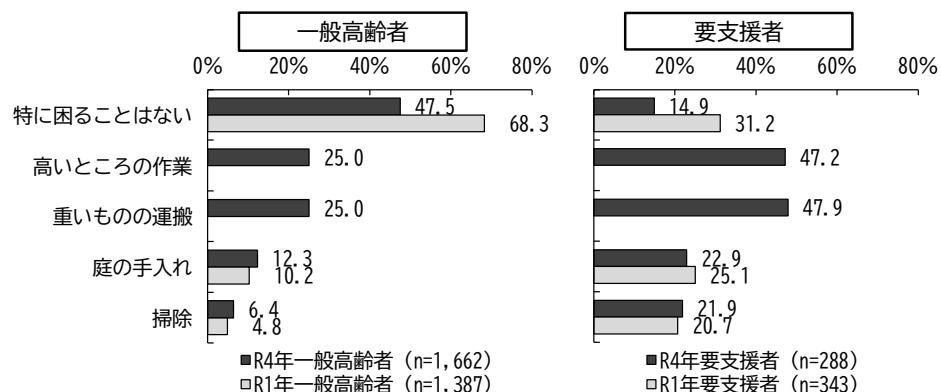
■口腔機能の低下リスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



■低栄養リスク【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



■日常生活で困っていることは何ですか。(上位5項目)【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



◆◆支援のポイント◆◆

高齢者の年齢構成の高齢化に伴い、一人暮らし高齢者の増加や身体機能が低下する高齢者の増加が進んでおり、要介護につながるリスクを有する高齢者の増加に対応した通いの場等の介護予防の取り組みの充実や、生活を支援する地域の助け合い活動の体制整備が課題となります。

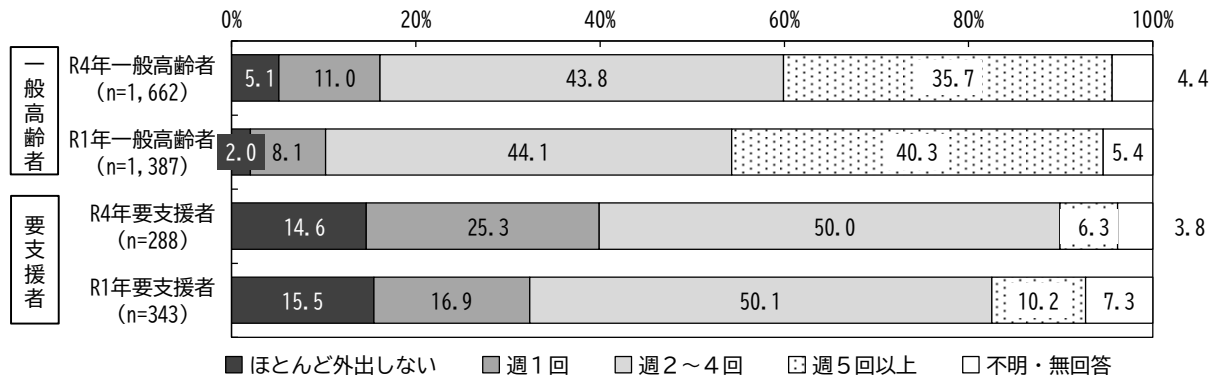
(2) 外出や交流の機会の減少について

◇新型コロナウイルス感染症の拡大を背景として、外出の頻度について、「ほとんど外出しない」または「週1回」という回答が増加し、「週5回以上」が減少しています。

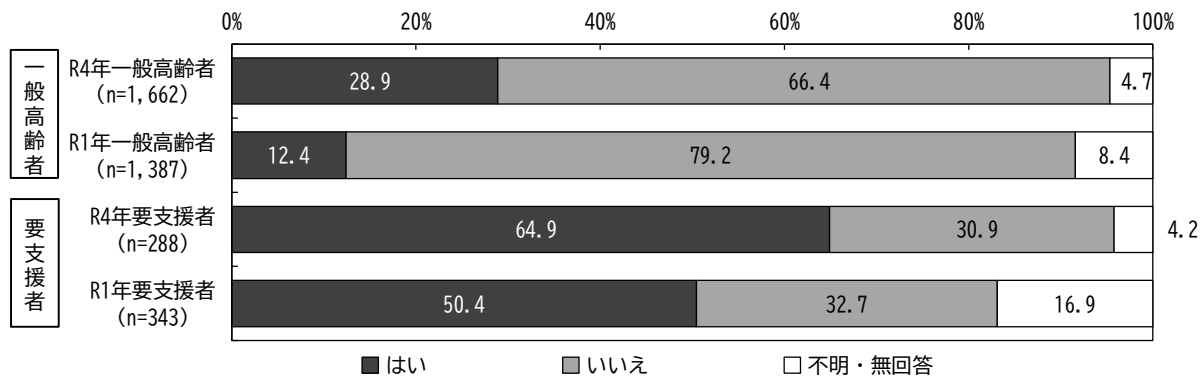
◇外出を控えている人は、一般高齢者で前回の12.4%から28.9%へと大幅に増加しています。

◇バスや電車を使って一人で外出することについても、「できるが、していない」が増加しています。

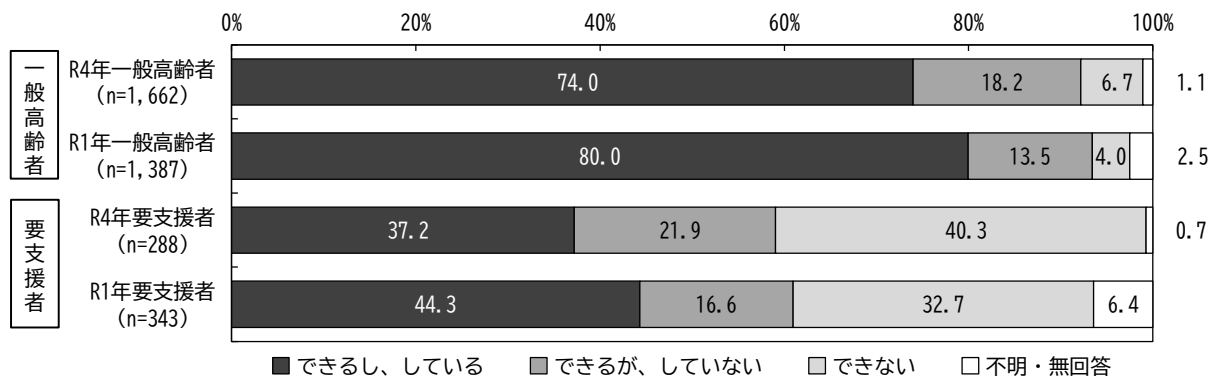
■週に1回以上は外出していますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



■外出を控えていますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



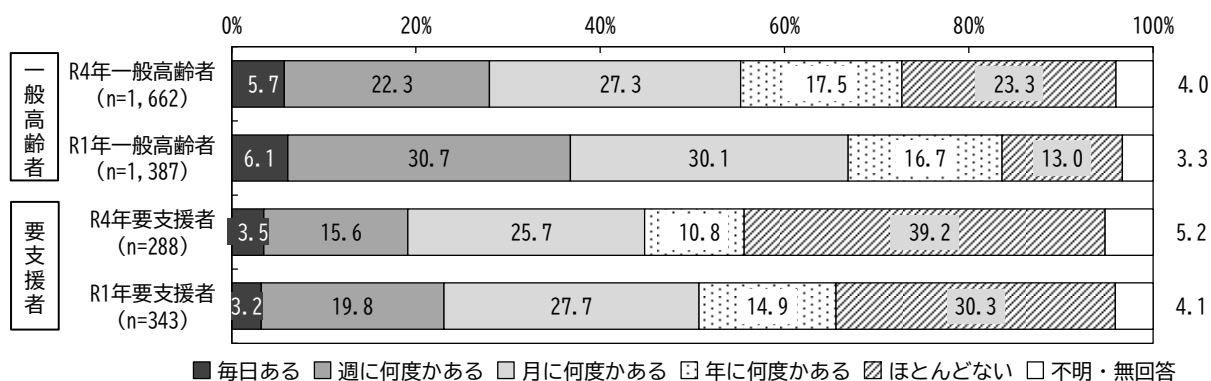
■バスや電車を使って一人で外出していますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



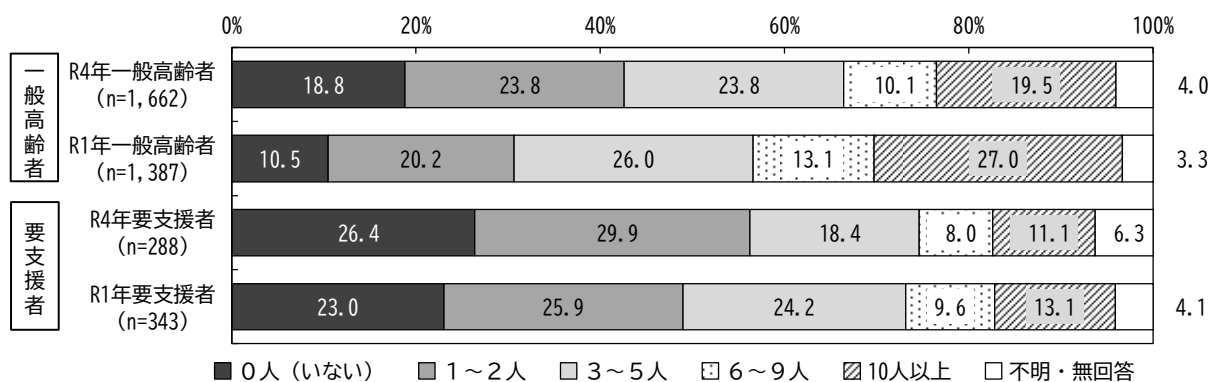
◇友人・知人と会う頻度について、「ほとんどない」が増加しています。

◇1か月間に会った友人・知人の数についても、「0人(いない)」または「1～2人」が増加し、それより多い人数の回答が減少しています。

■友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



■この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



◆◆支援のポイント◆◆

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、高齢者の閉じこもり傾向が高まっていることが示されています。また、友人・知人との関係についても、希薄化の傾向が見られます。外出・交流機会の減少が常態化することで、フレイルの発生や相互扶助関係の喪失が懸念される状況であり、外出・交流の活性化や地域における介護予防の取り組みを進めることが求められています。

(3) 支え合いや幸福度について

◇病気で寝込んだ時に看病や世話をしてくれる人について、一人暮らしの高齢者では「そのような人はいない」が1割を超えており、特に支援を受けにくい状況にあることがうかがえます。

◇家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する人について、「そのような人はいない」が一般高齢者で半数を超えており、前回調査よりやや増加しています。

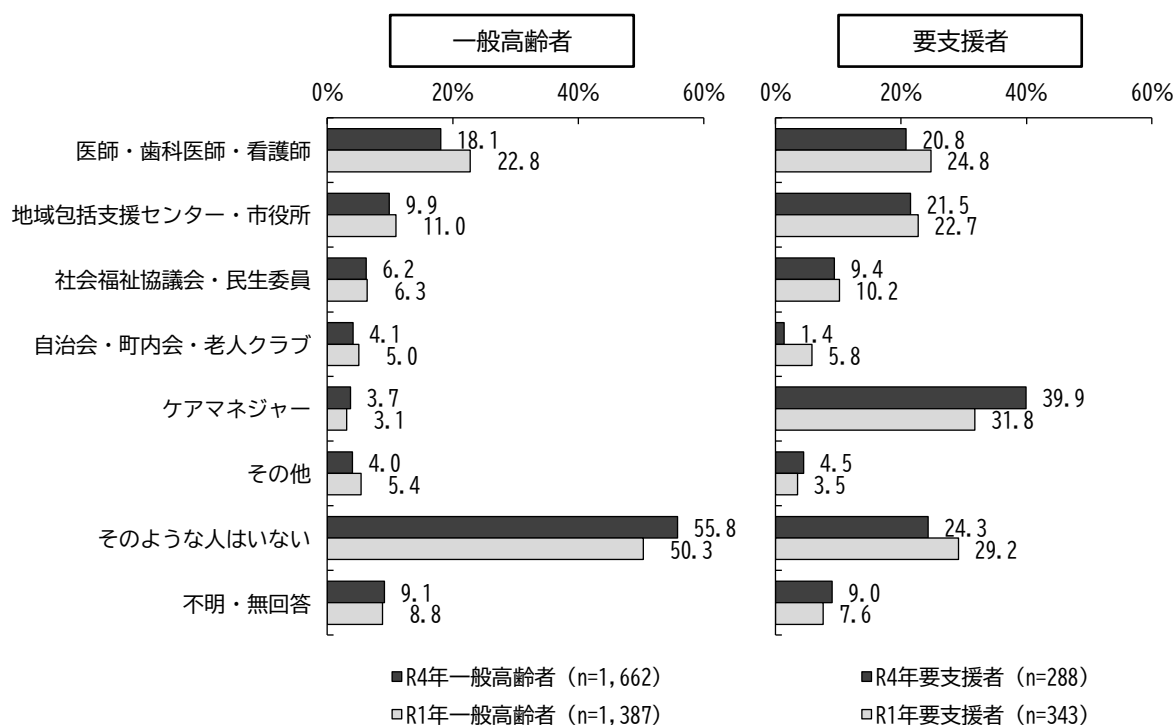
■あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人は誰ですか。(家族構成別)

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

単位：%

	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣の人	その他	そのような人はいない	不明・無回答
1人暮らし (n=269)	1.9	53.2	1.9	23.0	12.6	3.3	2.6	17.5	4.8
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=773)	88.7	34.8	3.8	6.2	2.2	1.0	0.3	2.5	3.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=55)	96.4	14.5	10.9	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
息子・娘との2世帯 (n=298)	53.4	14.1	70.1	9.4	0.3	0.7	0.7	2.3	3.0
その他 (n=195)	60.0	16.4	55.9	9.7	1.0	1.0	1.0	2.6	4.6

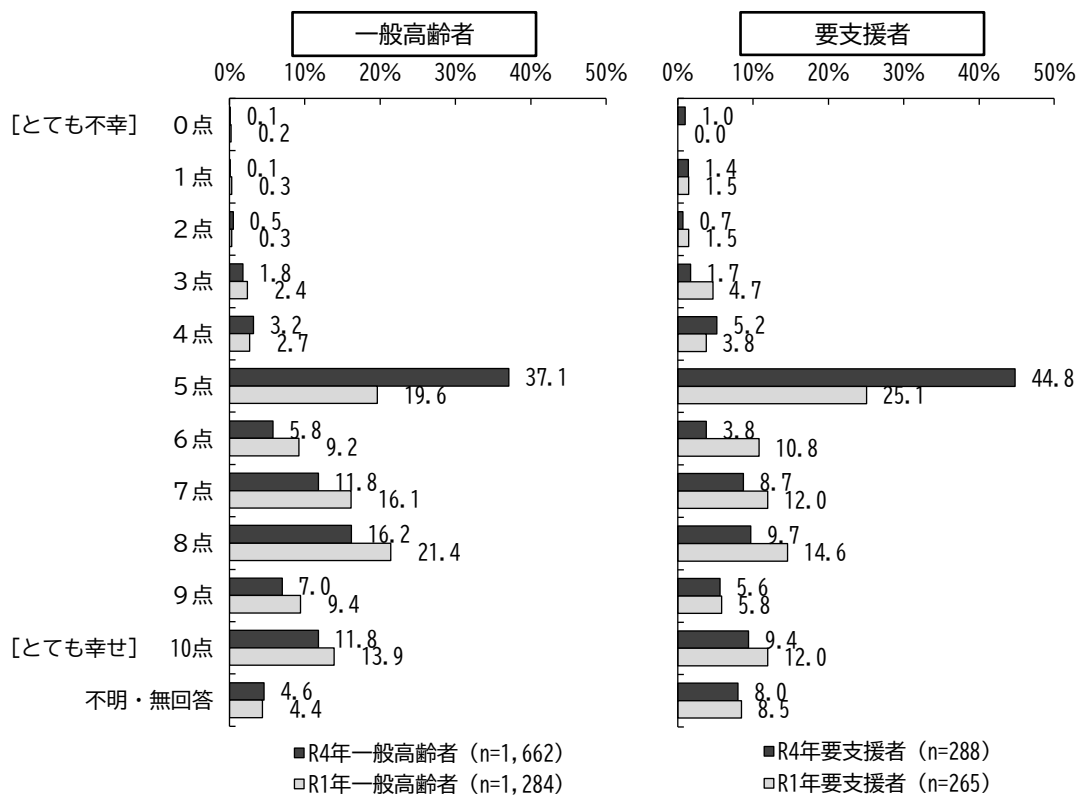
■家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する人はいますか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



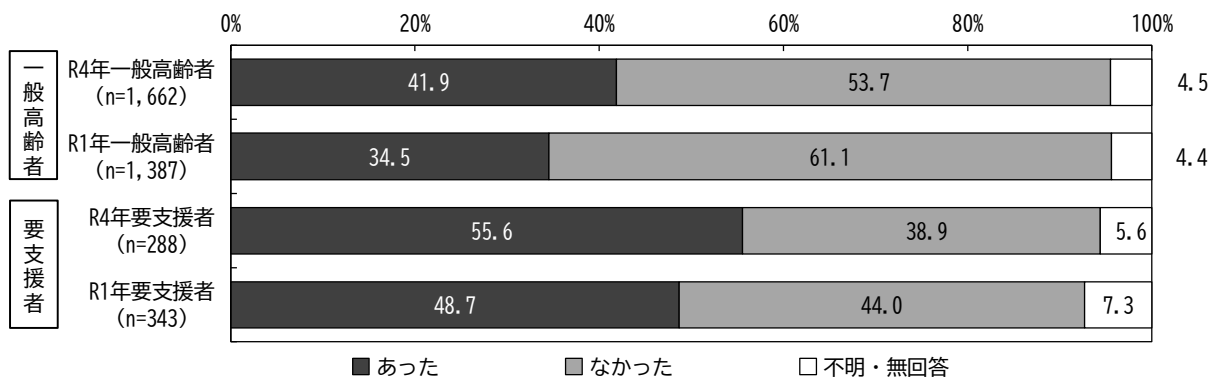
◇現在の幸福度（10点満点）について、6点以上の回答が減少し、5点が増加しており、平均点は一般高齢者で前回7.1点から6.6点に、要支援者で6.5点から6.1点にそれぞれ低下しています。

◇気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることについて、「あった」が増加しています。

■あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として回答してください）【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



■この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】



◆◆支援のポイント◆◆

一人暮らし高齢者において、支援を受けられる関係にやや乏しい傾向が示されています。また、家族や友人・知人以外で相談できる人がいない高齢者が増加しています。助け合うことのできる関係づくりの支援が課題となります。また、高齢者の主観的幸福度が低下しており、閉じこもりや人間関係の希薄化との関連についても注視が必要です。

(4) 在宅要介護認定者の状況について

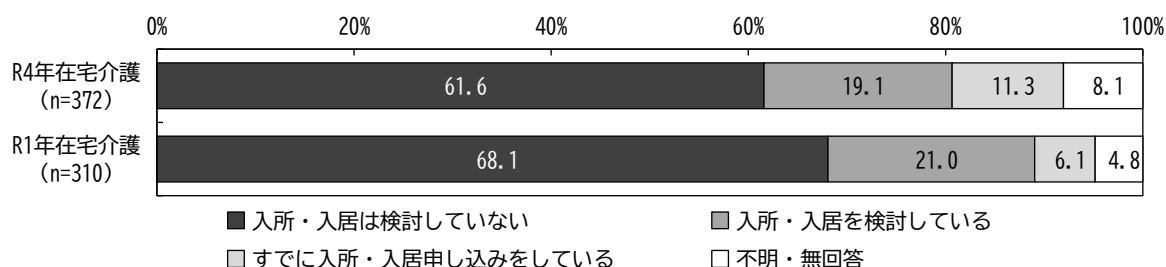
◇在宅で生活する要介護認定者について、施設等への入所・入居を「検討していない」がやや減少しています。

◇要介護3以上でも約半数は「検討していない」と回答しています。

◇訪問診療を利用している人が増加しています。

◇家族・親族からの介護は「ほぼ毎日」が64.8%を占めています。

■現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。【在宅介護実態調査】

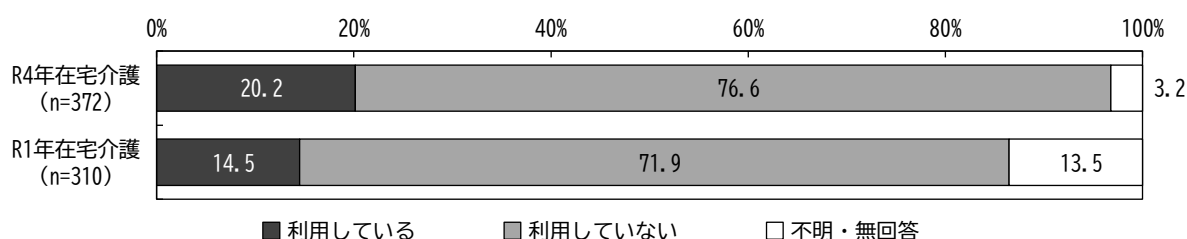


■要介護度別にみた施設等への入所・入居の検討状況【在宅介護実態調査】

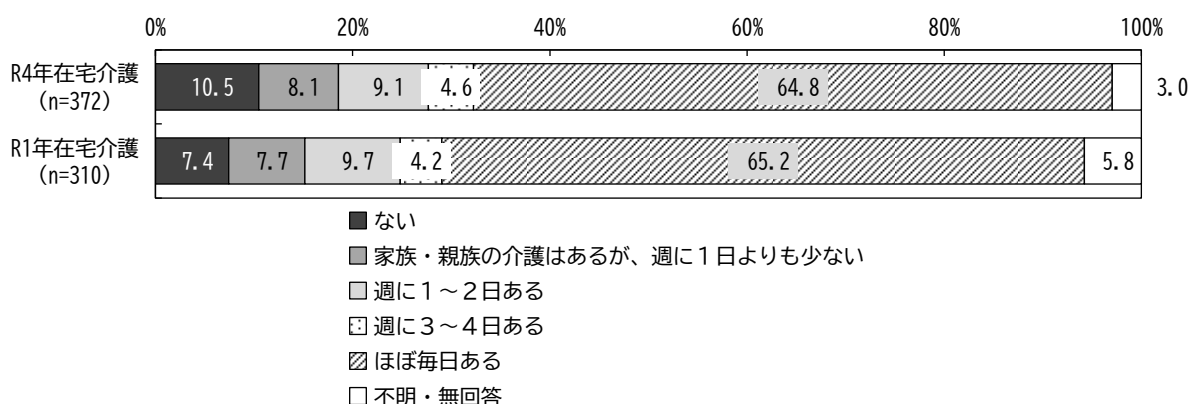
単位：%

要介護度	入所・入居を検討していない	入所・入居を検討している	すでに入所・入居申し込みをしている	不明・無回答
要支援1・2 (n=51)	76.5	9.8	2.0	11.8
要介護1 (n=109)	69.7	17.4	6.4	6.4
要介護2 (n=98)	57.1	25.5	11.2	6.1
要介護3～5 (n=99)	48.5	18.2	22.2	11.1

■現在、訪問診療を利用していますか。【在宅介護実態調査】



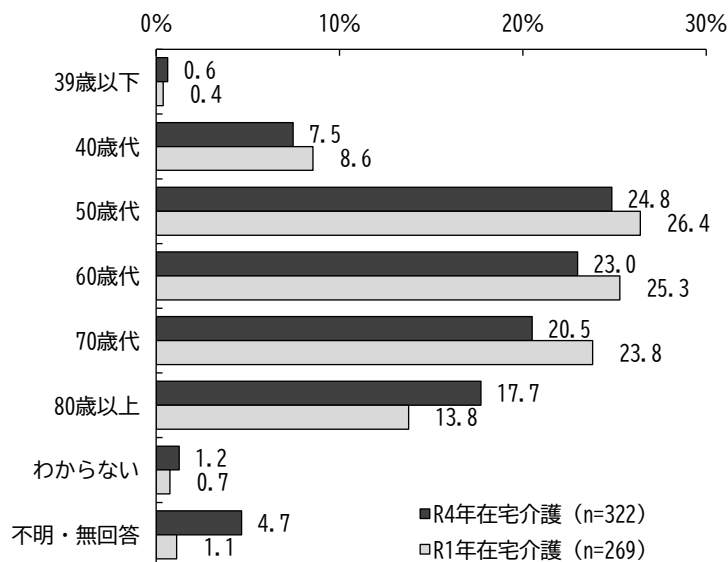
■ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)【在宅介護実態調査】



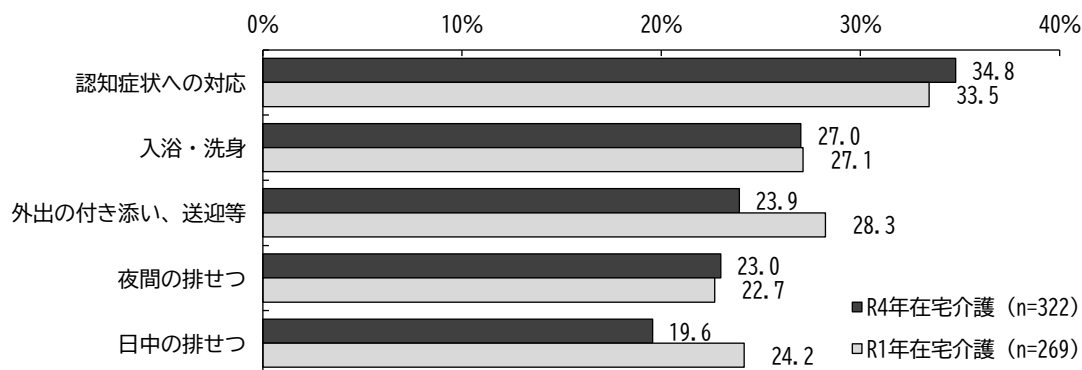
◇主な介護者の年齢は70歳以上が38.2%となっており、前回調査より「80歳以上」がやや増加しています。

◇主な介護者が不安に感じる介護については、「認知症状への対応」が最も多くなっています。

■主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。【在宅介護実態調査】



■現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。(現状で行っているか否かは問いません)【在宅介護実態調査】



◆◆支援のポイント◆◆

訪問診療の利用は増加しています。要介護度が高くても在宅生活を続けようとする人が約半数いる一方、主な介護者の年齢が80歳以上の割合が増加しています。在宅での生活を維持していくためには、引き続き支援が必要な状況です。認知症への対応をはじめとして家族介護の負担を軽減し、在宅での生活を支援する取り組みの充実が求められます。

(5) 介護人材の確保について

- ◇訪問系事業所の採用者数は、正規職員は40歳～59歳、非正規職員は30歳～69歳が多く、正規職員では70歳以上の採用も全体の14.7%を占めています。
- ◇施設・通所系事業所の採用者数は、正規職員、非正規職員ともに40歳～59歳が多くなっています。
- ◇訪問系事業所の離職者数は、正規職員では50歳代を中心に40～59歳が多く、非正規職員も40～69歳が多くなっています。
- ◇施設・通所系事業所の離職者数は、正規職員では40～59歳が多く、非正規職員は30～59歳の間で多くなっています。

■過去1年間（令和3（2021）年12月1日～令和4（2022）年12月1日）の介護職員の採用者数と離職者数をご記入ください。採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。【介護人材実態調査】

①採用者数

採用者数		回答事業所数（事業所）	採用者合計（人）	採用者の年齢別割合（％）							
				20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	年齢不明
正規職員	訪問系事業所	18	34	0.0	0.0	8.8	29.4	35.3	11.8	14.7	0.0
	施設・通所系事業所	66	124	2.4	16.1	13.7	26.6	25.0	14.5	1.6	0.0
非正規職員	訪問系事業所	18	58	0.0	3.4	19.0	22.4	24.1	20.7	10.3	0.0
	施設・通所系事業所	66	189	0.5	8.5	20.1	23.8	24.3	10.6	12.2	0.0

②離職者数

離職者数		回答事業所数（事業所）	離職者合計（人）	離職者の年齢別割合（％）							
				20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	年齢不明
正規職員	訪問系事業所	18	23	0.0	0.0	0.0	21.7	43.5	26.1	8.7	0.0
	施設・通所系事業所	66	68	1.5	13.2	13.2	27.9	30.9	8.8	4.4	0.0
非正規職員	訪問系事業所	18	36	2.8	2.8	5.6	19.4	27.8	30.6	11.1	0.0
	施設・通所系事業所	66	94	1.1	8.5	18.1	24.5	18.1	13.8	16.0	0.0

◆◆支援のポイント◆◆

介護サービス事業所の正規職員採用は40歳代、50歳代が多く、若い世代の就職が少ない状況となっています。また、離職者についても40歳代から60歳代が多くなっています。今後、人口の多い40歳代後半から50歳代前半のいわゆる団塊ジュニア世代が高齢化していくに伴い、これまで以上に介護人材の確保が課題になることが考えられます。

5. 日常生活圏域別の状況について

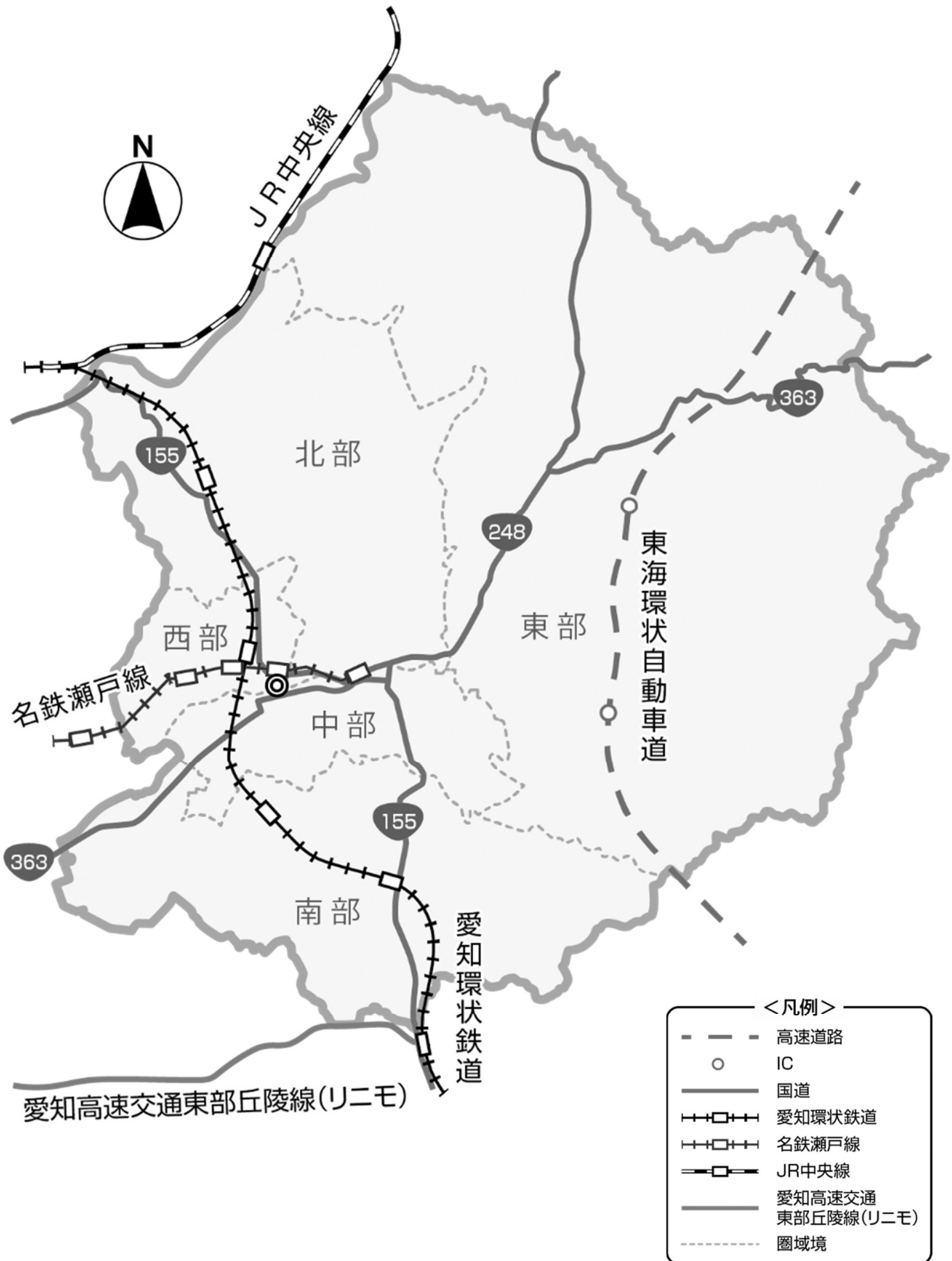
(1) 日常生活圏域の設定について

日常生活圏域とは、地域の実情を踏まえたサービスの基盤整備を行うため、介護保険事業計画において、当該市町村がその住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件・人口・交通事情その他の社会的条件を総合的に勘案して定める区域となっています。本市では、以下の5つの日常生活圏域を設定しています。

■日常生活圏域と対象となる連区等

日常生活圏域	対象となる連区等
北部圏域	道泉・深川・水野・西陵
東部圏域	古瀬戸・東明・品野（品野・下品野）
中部圏域	祖母懐・陶原・長根
西部圏域	效範・水南
南部圏域	山口・菱野・本地・新郷・原山台・萩山台・八幡台

■本市の日常生活圏域



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

資料編

(2) 地域別の状況の市平均との比較

①各種指標に基づく分析

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の結果に基づき、以下の項目について、各圏域における調査結果の集計を市全体の集計と比較することで、それぞれの圏域の特徴・課題を分析します。

項目	内容
1. 統計指標	○年齢別人口 ○高齢化率 ○認定者数 ○認定率
2. 高齢者の状況	○単身世帯の割合 ○高齢者夫婦のみ世帯の割合 ○各種要介護リスクの状況
3. 地域での活動	○地域づくり活動（参加者）への参加意向 ○地域づくり活動（企画・運営）への参加意向 ○ボランティアグループ参加率 ○老人クラブ参加率 ○町内会・自治会参加率 ○支援や助け合いの活動意向
4. 健康感や幸福感	○主観的健康感 ○幸福感 ○趣味の有無 ○生きがいの有無
5. 孤立の状況	○孤食の状況 ○友人との交流の少なさ ○心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない ○看病や世話をしてくれる人がいない ○昨年と比べて外出の回数が減っている ○外出を控えている
6. 在宅介護の状況	○老老介護の割合 ○施設等への入所・入居の検討 ○介護保険以外の支援・サービスの利用 ○介護保険サービスの利用の有無 ○訪問診療の利用の有無 ○主な介護者が行う介護の種類 ○主な介護者以外の介護者の有無 ○就労継続の見通し

②地域課題の分析における留意事項

- ◆市全域の人口・圏域別・年齢別人口は、令和5（2023）年10月1日現在の住民基本台帳における瀬戸市連区別・年齢別・男女別人口に基づきます。
- ◆地域カルテに掲載している、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査に基づく数値については、要支援者の割合の違いによって地区ごとの数値にばらつきが出て比較ができなくなることを防ぐため、要支援者を除いた一般高齢者のみの数値を用いています。
- ◆各圏域の要介護リスクの状況のレーダーチャートは、各リスクの割合を平均50、標準偏差10に揃えた標準得点（偏差値）で比較しています。

③地域カルテ指標

地域カルテにおいて指標として用いた数値の定義は以下のとおりです。

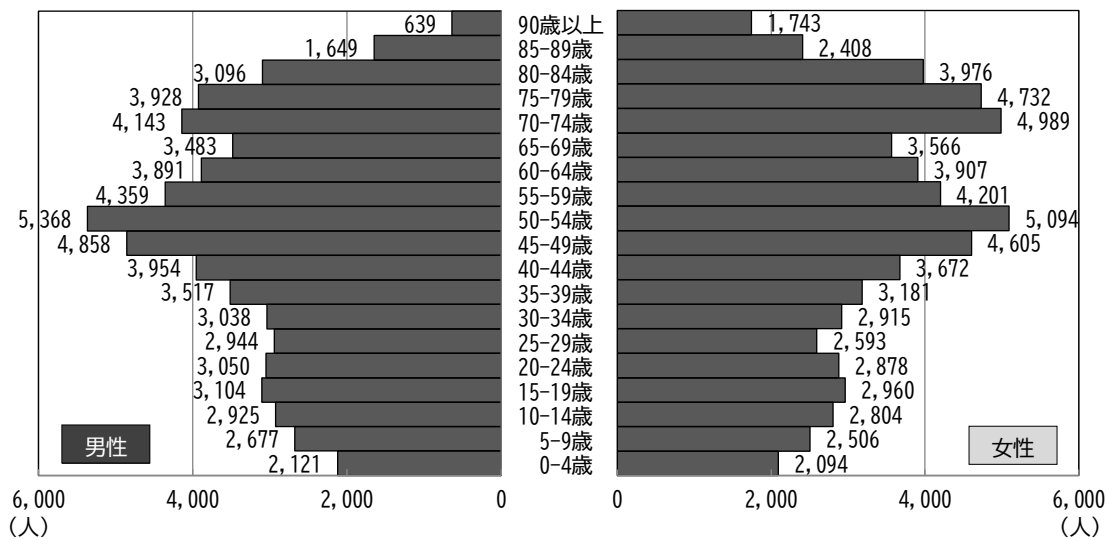
指標	説明
単身世帯の割合	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問6で「一人暮らし」を回答した割合。
高齢者夫婦のみ世帯の割合	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問6で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」を回答した割合。
地域づくり活動への参加意向 (参加者として)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問57で、「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」のいずれかを回答した割合。
地域づくり活動への参加意向 (企画・運営として)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問58で、「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」のいずれかを回答した割合。
ボランティアのグループ参加率 老人クラブ参加率 町内会・自治会参加率	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問56で、①ボランティアのグループ、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会のそれぞれについて、「参加していない」以外を回答した割合。
支援・助け合い活動可能数平均	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問59で「特にできることはない」以外の助け合い活動を回答した数の平均。
主観的健康感が良い	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問68で「とてもよい」または「まあよい」を回答した割合。
幸福感がある(8点以上)	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問69で「8点」「9点」「10点」のいずれかを回答した割合。
趣味がある	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問52で「はい」と回答した割合。
生きがいがある	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問53で「はい」と回答した割合。
誰かと食事をともにする機会がない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問34で「ほとんどない」と回答した割合。
友人との交流がない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問66で「0人(いない)」と回答した割合。
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問60で「そのような人はいない」と回答した割合。
看病や世話をしてくれる人がいない	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問62で「そのような人はいない」と回答した割合。
昨年と比べて外出の回数が減っている	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問20で「とても減っている」または「減っている」と回答した割合。
外出を控えている	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査問21で「はい」と回答した割合。
主な介護者が70歳以上	在宅介護実態調査A票問5で主な介護者の年齢について「70歳代」または「80歳以上」と回答した割合。
施設等への入所・入居を検討/申し込みをしている	在宅介護実態調査A票問10で「入所・入居を検討している」または「すでに入所・入居申し込みをしている」と回答した割合。
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	在宅介護実態調査A票問8で「利用していない」以外の支援・サービスを回答した数の平均。
介護保険サービスを利用していない	在宅介護実態調査A票問13で「利用していない」と回答した割合。
訪問診療を利用していない	在宅介護実態調査A票問12で「利用していない」と回答した割合。
主な介護者が行う介護の種類の平均	在宅介護実態調査A票問6で「わからない」以外の介護等を回答した数の平均。
主な介護者以外の介護者がいない	在宅介護実態調査B票問5で「いない」と回答した割合。
就労継続の見通しが困難	在宅介護実態調査B票問4で「続けていくのは、やや難しい」または「続けていくのは、かなり難しい」と回答した割合。

(3) 圏域別の状況

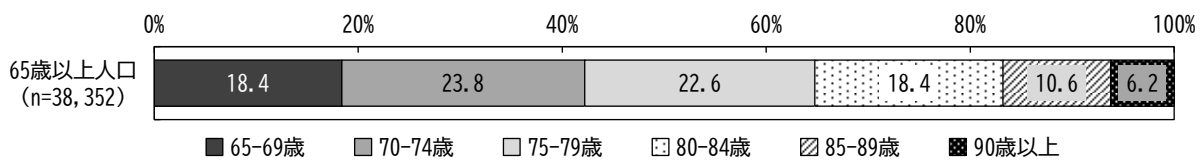
①市全域

- ◆高齢者の人口は 70～74 歳の層が最も多くなっており、今後この年代が高齢化することで、支援が必要な高齢者が増加することが見込まれます。
- ◆前回調査との違いとして、誰かと食事をとる機会に乏しい孤食者の増加、友人との交流がない高齢者の増加、外出を控えている高齢者の増加といった結果が示されており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が高齢者の生活に大きな影響を与えていることがうかがえます。
- ◆75 歳以上人口構成率の上昇を背景として、要介護リスクのある高齢者の割合が増加している項目が多くなっており、介護予防の取り組みの重要性が増しています。

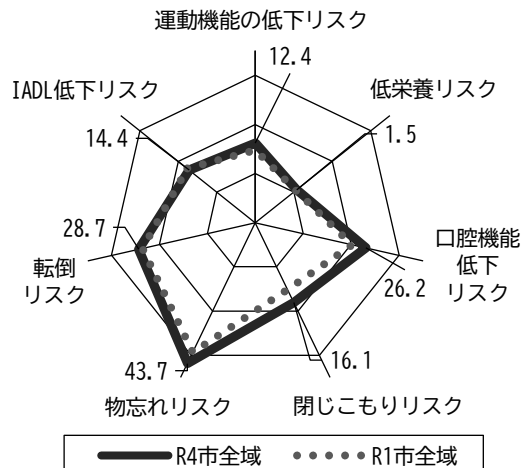
■人口ピラミッド（人口：127,568 人、65 歳以上：30.1%、75 歳以上：17.4%）※令和5（2023）年10月1日時点



■年齢別高齢者人口割合



■要介護リスクの状況（前回調査との比較）



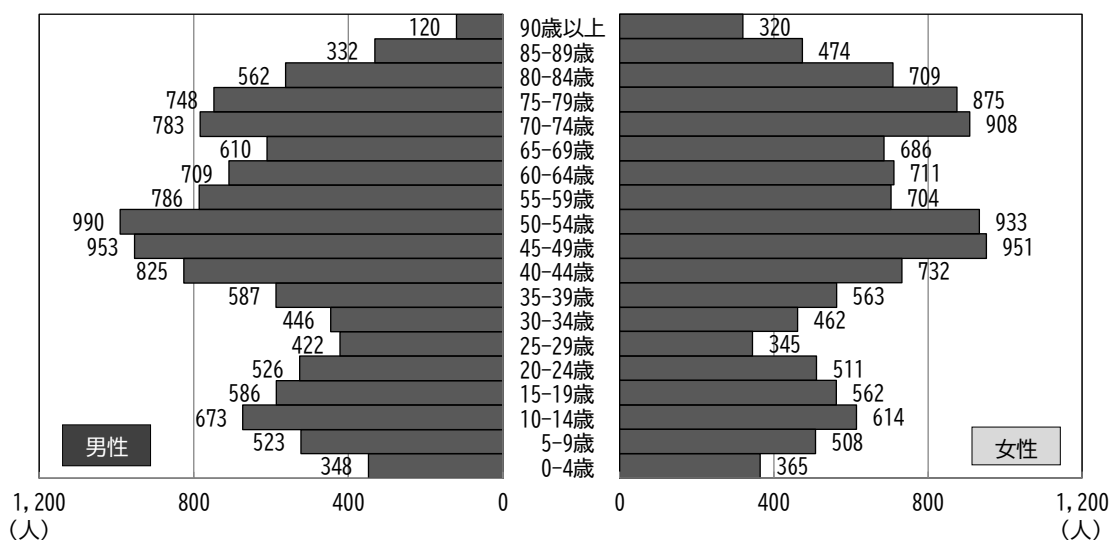
※ IADLは「手段的日常生活動作」と訳され、掃除・料理・洗濯・買い物等の家事やコミュニケーション、交通機関の利用、自分の薬の管理、お金の管理等、単純な運動能力ではなく、日常生活を問題なく送る上で必要な活動を行う力を意味します。

地域カルテ 【市全域】					
指標等項目	数値	前回との差	指標等項目	数値	前回との差
1. 統計指標					
人口	127,568 人	-1,563	高齢化率	30.1%	+0.3
高齢者人口	38,352 人	-61	75 歳以上人口率	17.4%	+1.8
75 歳以上人口	22,171 人	+2,031	85 歳以上人口率	5.0%	+0.7
要支援 1・2 認定者数	1,880 人	+163	要介護 1・2 認定者数	2,592 人	+119
要介護 3～5 認定者数	2,121 人	+9	65 歳以上認定率	16.8%	+0.7
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	16.2%	+3.2	口腔機能低下リスク	26.2%	+5.8
高齢者夫婦のみ世帯の割合	46.5%	-0.1	閉じこもりリスク	16.1%	+5.9
虚弱リスク	8.2%	+3.1	物忘れリスク	43.7%	+4.9
運動機能の低下リスク	12.4%	+3.0	転倒リスク	28.7%	+1.6
低栄養リスク	1.5%	+0.6	IADL 低下リスク	14.4%	-1.0
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	52.4%	-7.7	老人クラブ参加率	4.3%	-0.2
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	31.2%	-6.1	町内会・自治会参加率	25.3%	+1.7
ボランティアのグループ参加率	14.9%	+3.5	支援・助け合い活動可能数平均	1.4 件	-
4. 健康感や幸福感					
主観的健康感が良い	77.5%	-4.1	趣味がある	76.7%	+3.5
幸福感がある（8点以上）	35.0%	-9.8	生きがいがある	78.3%	+21.4
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	7.6%	+1.6	看病や世話をしてくれる人がいない	4.9%	-1.5
友人との交流がない	18.8%	+8.3	昨年と比べて外出の回数が減っている	28.0%	+3.1
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	4.0%	-1.3	外出を控えている	28.9%	+16.5
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	38.2%	+0.7	訪問診療を利用していない	76.6%	+4.7
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	30.4%	+3.3	主な介護者が行う介護の種類	6.0 件	-
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	0.6 件	-	主な介護者以外の介護者がいない	23.0%	-
介護保険サービスを利用していない	24.7%	+6.6	就労継続の見通しが困難	12.1%	+0.1

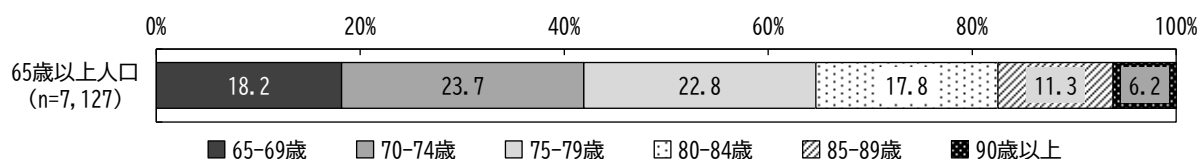
②北部圏域（道泉・深川・水野・西陵）

- ◆高齢者の年齢構成はほぼ市全域と同様の傾向となっており、今後人口の多い70歳代が高齢化することで、支援が必要な高齢者が増加することが見込まれます。
- ◆要介護リスクの状況を見ると、低栄養リスクが高くなっています。
- ◆誰かと食事をともにする機会がない、または看病や世話をしてくれる人がいない高齢者はやや少ない一方で、外出が減っている、または外出を控えている高齢者はやや多くなっています。
- ◆在宅介護の状況を見ると、施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている割合が高く、介護保険サービスを利用していない割合は低くなっています。

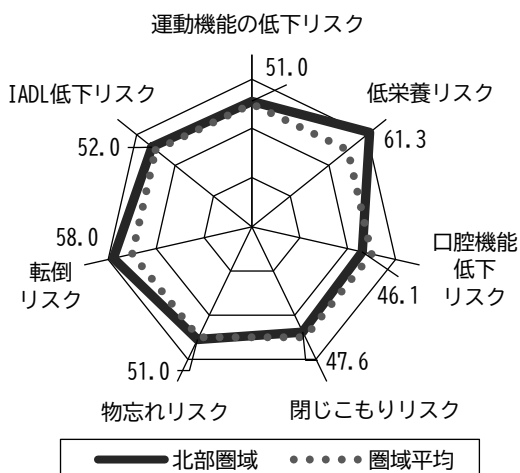
■人口ピラミッド（人口：23,462人、65歳以上：30.4%、75歳以上：17.6%）※令和5（2023）年10月1日時点



■年齢別高齢者人口割合



■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）

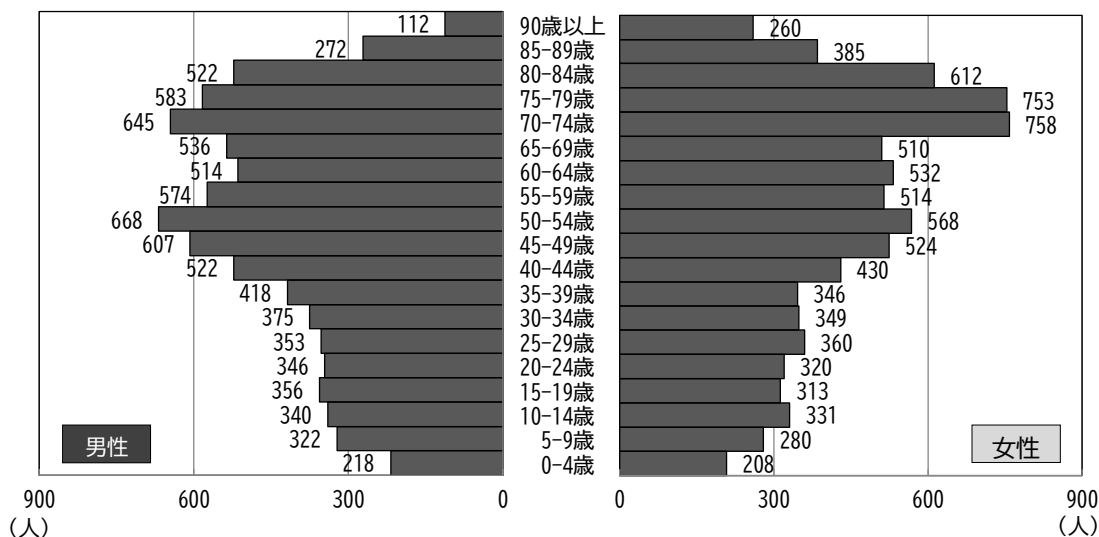


地域カルテ 【北部圏域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	23,462 人	-	高齢化率	30.4%	+0.3
高齢者人口	7,127 人	-	75 歳以上人口率	17.6%	+0.3
75 歳以上人口	4,140 人	-	85 歳以上人口率	5.3%	+0.3
要支援 1・2 認定者数	347 人	-	要介護 1・2 認定者数	454 人	-
要介護 3～5 認定者数	383 人	-	65 歳以上認定率	16.6%	-0.2
2. 高齢者の状況					
0					
単身世帯の割合	15.1%	-1.1	口腔機能低下リスク	25.6%	-0.6
高齢者夫婦のみ世帯の割合	46.6%	+0.1	閉じこもりリスク	16.1%	0.0
虚弱リスク	8.5%	+0.3	物忘れリスク	44.6%	+0.9
運動機能の低下リスク	12.8%	+0.4	転倒リスク	30.8%	+2.1
低栄養リスク	2.0%	+0.5	IADL 低下リスク	14.4%	0.0
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	54.4%	+2.0	老人クラブ参加率	3.7%	-0.6
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	33.2%	+2.0	町内会・自治会参加率	24.2%	-1.1
ボランティアのグループ参加率	17.3%	+2.4	支援・助け合い活動可能数平均	1.6 件	+0.2
4. 健康感や幸福感					
主観的健康感が良い	77.4%	-0.1	趣味がある	73.1%	-3.6
幸福感がある（8点以上）	36.0%	+1.0	生きがいがある	78.0%	-0.3
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	5.6%	-2.0	看病や世話をしてくれる人がいない	3.6%	-1.3
友人との交流がない	20.0%	+1.2	昨年と比べて外出の回数が減っている	30.8%	+2.8
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	4.9%	+0.9	外出を控えている	31.5%	+2.6
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	42.2%	+4.0	訪問診療を利用していない	81.2%	+4.6
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	43.5%	+13.1	主な介護者が行う介護の種類平均	6.2 件	+0.2
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類平均	0.6 件	0.0	主な介護者以外の介護者がいない	14.1%	-8.9
介護保険サービスを利用していない	17.4%	-7.3	就労継続の見通しが困難	10.7%	-1.4

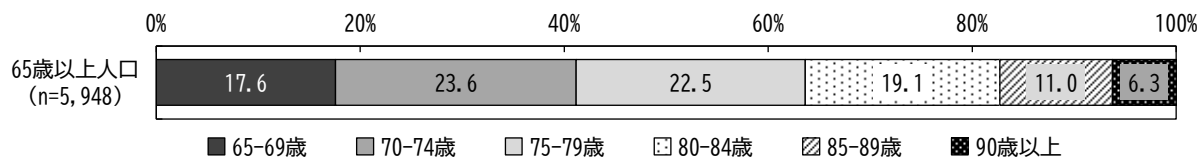
③東部圏域（古瀬戸・東明・品野）

- ◆高齢化率、75歳以上人口率ともに5圏域の中で最も高く、本市において最も高齢化が進んだ地域となっています。
- ◆要介護リスクの状況を見ると、市全域より数値の高い項目が多く、中でも運動機能の低下リスク、閉じこもりリスク、物忘れリスクが高くなっています。
- ◆地域での活動については、町内会・自治会参加率が高くなっています。
- ◆在宅介護の状況を見ると、施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている割合がやや低い一方で、就労継続の見通しが困難な割合が高くなっています。

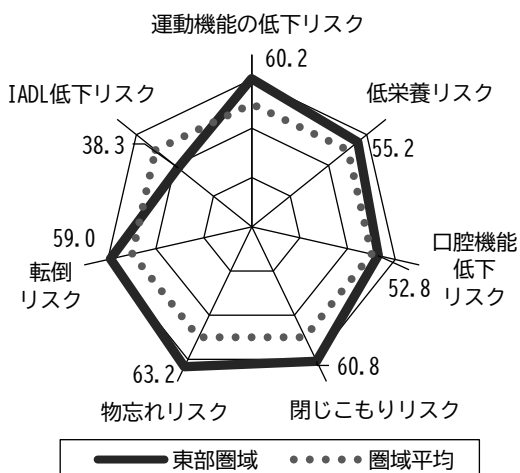
■人口ピラミッド（人口：16,636人、65歳以上：35.8%、75歳以上：21.0%）※令和5（2023）年10月1日時点



■年齢別高齢者人口割合



■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）

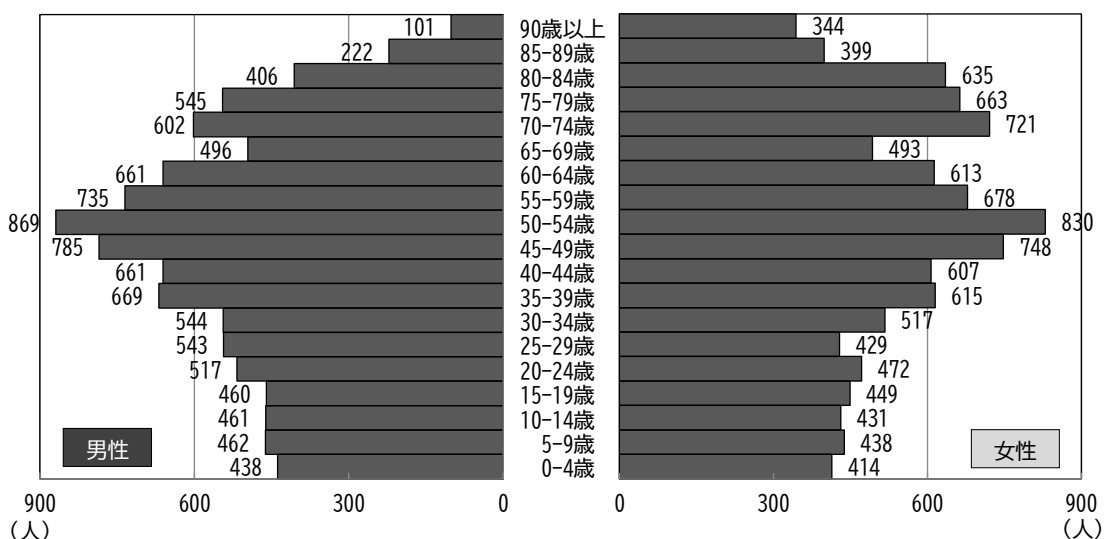


地域カルテ 【東部圏域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	16,636 人	-	高齢化率	35.8%	+5.7
高齢者人口	5,948 人	-	75 歳以上人口率	21.0%	+3.7
75 歳以上人口	3,499 人	-	85 歳以上人口率	6.2%	+1.1
要支援 1・2 認定者数	280 人	-	要介護 1・2 認定者数	420 人	-
要介護 3～5 認定者数	291 人	-	65 歳以上認定率	16.7%	-0.1
2. 高齢者の状況					
0					
単身世帯の割合	15.9%	-0.3	口腔機能低下リスク	27.2%	+1.0
高齢者夫婦のみ世帯の割合	47.8%	+1.3	閉じこもりリスク	18.1%	+2.0
虚弱リスク	7.8%	-0.4	物忘れリスク	48.3%	+4.6
運動機能の低下リスク	14.2%	+1.8	転倒リスク	31.0%	+2.3
低栄養リスク	1.7%	+0.2	IADL 低下リスク	12.5%	-1.9
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	51.3%	-1.1	老人クラブ参加率	4.3%	0.0
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	27.6%	-3.6	町内会・自治会参加率	34.0%	+8.7
ボランティアのグループ参加率	15.6%	+0.7	支援・助け合い活動可能数平均	1.3 件	-0.1
4. 健康感や幸福感					
主観的健康感が良い	75.5%	-2.0	趣味がある	78.0%	+1.3
幸福感がある（8点以上）	32.7%	-2.3	生きがいがある	78.0%	-0.3
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	8.2%	+0.6	看病や世話をしてくれる人がいない	7.8%	+2.9
友人との交流がない	18.5%	-0.3	昨年と比べて外出の回数が減っている	27.2%	-0.8
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	4.3%	+0.3	外出を控えている	27.6%	-1.3
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	36.9%	-1.3	訪問診療を利用していない	71.9%	-4.7
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	26.3%	-4.1	主な介護者が行う介護の種類	6.0 件	0.0
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	0.9 件	+0.3	主な介護者以外の介護者がいない	26.1%	+3.1
介護保険サービスを利用していない	22.8%	-1.9	就労継続の見通しが困難	18.2%	+6.1

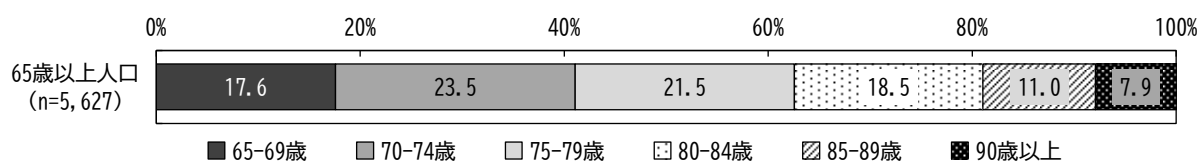
④中部圏域（祖母懐・陶原・長根）

- ◆高齢化率は5圏域の中では2番目に低くなっています。また、高齢者に占める74歳以下の割合が41.1%で、5圏域で最も低くなっています。
- ◆要介護リスクの状況を見ると、全体的に数値が高くなっており、中でも口腔機能低下リスク、IADL低下リスクが高くなっています。
- ◆地域づくり活動への参加意向がやや高い一方、町内会・自治会への参加率は低くなっています。
- ◆友人との交流がない高齢者がやや少ない一方で、外出が減っている、外出を控えている高齢者はやや多くなっています。
- ◆在宅介護の状況を見ると、施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている割合が低く、介護保険サービスを利用していない割合、訪問診療を利用していない割合も低くなっており、介護者の就労継続の見通しが困難な割合も低くなっています。

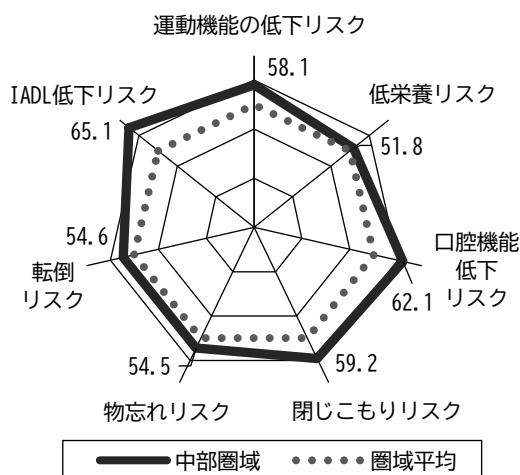
■人口ピラミッド（人口：20,673人、65歳以上：27.2%、75歳以上：16.0%）※令和5（2023）年10月1日時点



■年齢別高齢者人口割合



■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）

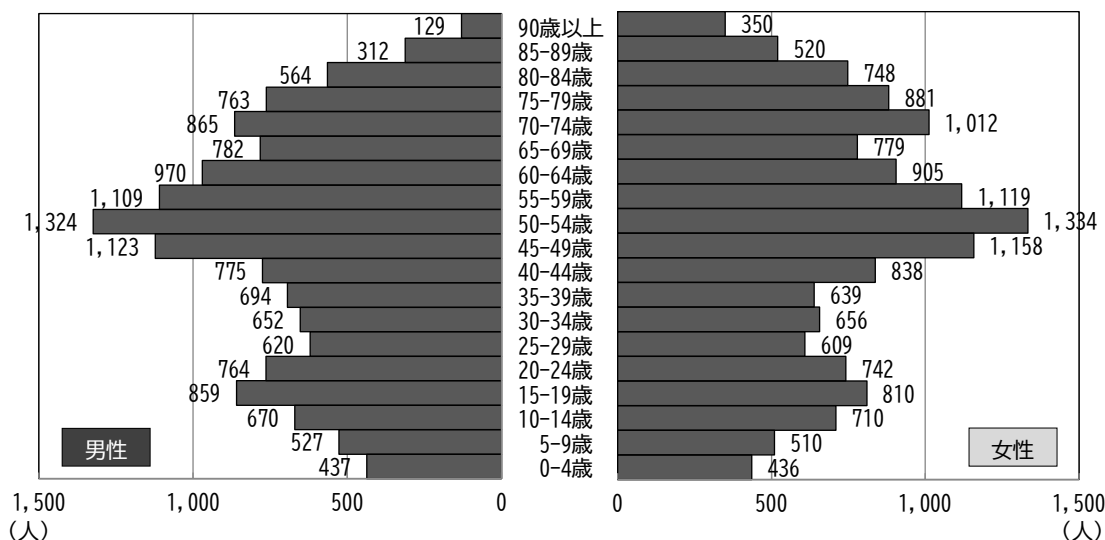


地域カルテ 【中部圏域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	20,673 人	-	高齢化率	27.2%	-2.8
高齢者人口	5,627 人	-	75 歳以上人口率	16.0%	-1.3
75 歳以上人口	3,315 人	-	85 歳以上人口率	5.2%	+0.1
要支援 1・2 認定者数	250 人	-	要介護 1・2 認定者数	377 人	-
要介護 3～5 認定者数	323 人	-	65 歳以上認定率	16.9%	0.1
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	20.6%	+4.4	口腔機能低下リスク	29.4%	+3.2
高齢者夫婦のみ世帯の割合	42.9%	-3.6	閉じこもりリスク	17.9%	+1.8
虚弱リスク	11.1%	+2.9	物忘れリスク	45.6%	+1.9
運動機能の低下リスク	13.9%	+1.5	転倒リスク	30.2%	+1.5
低栄養リスク	1.6%	+0.1	IADL 低下リスク	16.3%	+1.9
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	55.6%	+3.2	老人クラブ参加率	5.2%	+0.9
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	33.8%	+2.6	町内会・自治会参加率	19.1%	-6.2
ボランティアのグループ参加率	11.6%	-3.3	支援・助け合い活動可能数平均	1.4 件	0.0
4. 健康感や幸福感					
主観的健康感が良い	73.8%	-3.7	趣味がある	73.0%	-3.7
幸福感がある（8点以上）	37.6%	+2.6	生きがいがある	79.0%	+0.7
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	9.9%	+2.3	看病や世話をしてくれる人がいない	4.4%	-0.5
友人との交流がない	17.9%	-0.9	昨年と比べて外出の回数が減っている	30.5%	+2.5
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	3.6%	-0.4	外出を控えている	32.5%	+3.6
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	30.4%	-7.8	訪問診療を利用していない	73.1%	-3.5
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	19.3%	-11.1	主な介護者が行う介護の種類	6.5 件	+0.5
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	0.5 件	-0.1	主な介護者以外の介護者がいない	26.1%	+3.1
介護保険サービスを利用していない	15.4%	-9.3	就労継続の見通しが困難	5.3%	-6.8

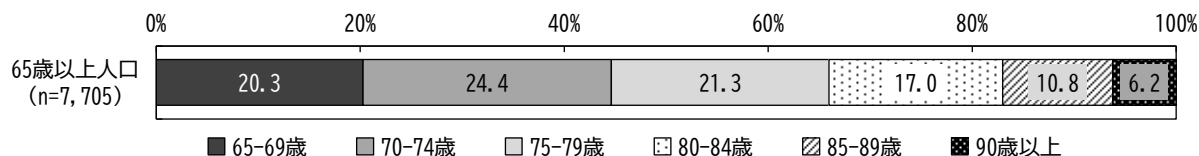
⑤西部圏域（効範・水南）

- ◆高齢化率、75歳以上人口率ともに5圏域の中で最も低く、75歳前後のいわゆる団塊の世代より、40歳代後半から50歳代前半の団塊ジュニア世代人口が多いのが特徴です。
- ◆要介護リスクの状況を見ると、全体的に市全域の数値を下回っています。
- ◆地域づくり活動への参加意向や、老人クラブまたは町内会・自治会への参加率は、他の地域より低くなっています。
- ◆在宅介護の状況を見ると、主な介護者が70歳以上の割合が低い一方で、施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている割合が高く、介護保険サービスを利用していない割合、訪問診療を利用していない割合も高くなっています。

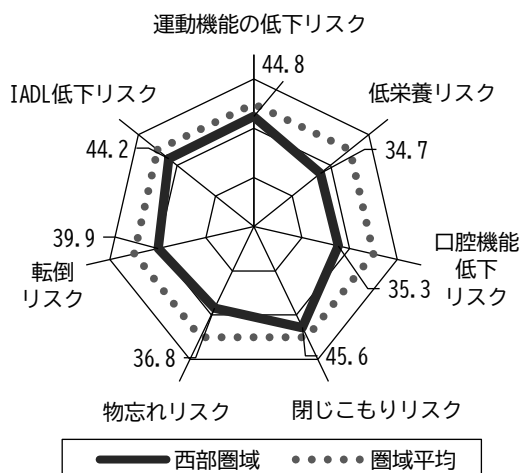
■人口ピラミッド（人口：28,695人、65歳以上：26.9%、75歳以上：14.9%）※令和5（2023）年10月1日時点



■年齢別高齢者人口割合



■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）

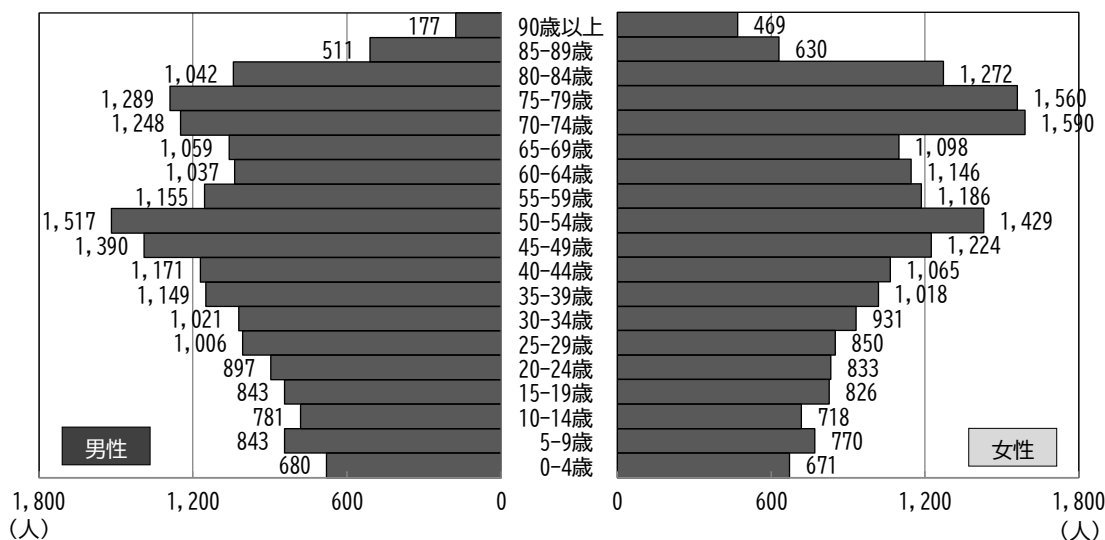


地域カルテ 【西部圏域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	28,695 人	-	高齢化率	26.9%	-3.2
高齢者人口	7,705 人	-	75 歳以上人口率	14.9%	-2.5
75 歳以上人口	4,267 人	-	85 歳以上人口率	4.6%	-0.5
要支援1・2 認定者数	324 人	-	要介護1・2 認定者数	492 人	-
要介護3～5 認定者数	362 人	-	65 歳以上認定率	15.3%	-1.5
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	13.0%	-3.2	口腔機能低下リスク	23.0%	-3.2
高齢者夫婦のみ世帯の割合	50.3%	+3.8	閉じこもりリスク	15.8%	-0.3
虚弱リスク	7.9%	-0.3	物忘れリスク	40.3%	-3.4
運動機能の低下リスク	11.8%	-0.6	転倒リスク	27.3%	-1.4
低栄養リスク	0.9%	-0.6	IADL 低下リスク	13.3%	-1.1
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	51.8%	-0.6	老人クラブ参加率	2.7%	-1.6
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	27.8%	-3.4	町内会・自治会参加率	19.4%	-5.9
ボランティアのグループ参加率	13.3%	-1.6	支援・助け合い活動可能数平均	1.4 件	0.0
4. 健康感や幸福感					
主観的健康感が良い	79.7%	+2.2	趣味がある	79.4%	+
幸福感がある（8点以上）	34.3%	-0.7	生きがいがある	80.3%	+2.0
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	6.4%	-1.2	看病や世話をしてくれる人がいない	5.2%	+0.3
友人との交流がない	19.4%	+0.6	昨年と比べて外出の回数が減っている	28.2%	+0.2
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	3.0%	-1.0	外出を控えている	27.9%	-1.0
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が70歳以上	30.8%	-7.4	訪問診療を利用していない	79.7%	+3.1
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	38.0%	+7.6	主な介護者が行う介護の種類	5.3 件	-0.7
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	0.6 件	0.0	主な介護者以外の介護者がいない	23.5%	+0.5
介護保険サービスを利用していない	31.6%	+6.9	就労継続の見通しが困難	9.4%	-2.7

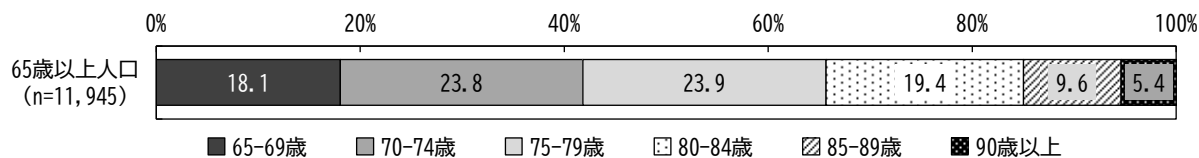
⑥南部圏域（山口・菱野・本地・新郷・原山台・萩山台・八幡台）

- ◆高齢化率、75歳以上人口率ともに5圏域の中で2番目に高くなっています。
- ◆要介護リスクの状況を見ると、市全域よりも数値の低い項目が多くなっています。
- ◆町内会・自治会への参加率はやや高くなっています。
- ◆友人との交流がない高齢者の割合が、他の地域よりやや低くなっています。
- ◆在宅介護の状況を見ると、主な介護者が70歳以上の割合が高くなっています。施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている割合が低い一方、介護保険サービスを利用していない割合が高く、就労継続の見通しが困難な割合も高くなっています。

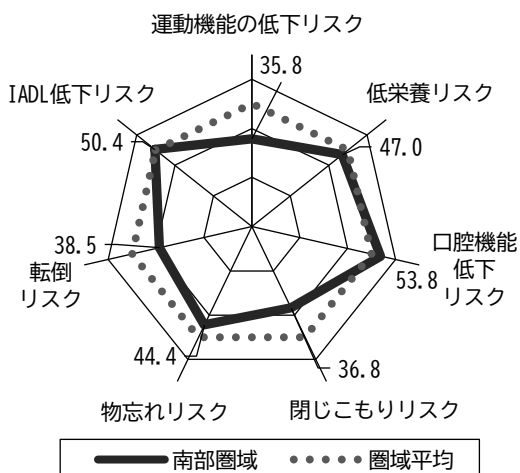
■人口ピラミッド（人口：38,102人、65歳以上：31.4%、75歳以上：18.2%）※令和5（2023）年10月1日時点



■年齢別高齢者人口割合



■要介護リスクの状況（圏域平均との比較）



地域カルテ 【南部圏域】					
指標等項目	数値	市全域との差	指標等項目	数値	市全域との差
1. 統計指標					
人口	38,102 人	-	高齢化率	31.4%	+1.3
高齢者人口	11,945 人	-	75 歳以上人口率	18.2%	+0.9
75 歳以上人口	6,950 人	-	85 歳以上人口率	4.7%	-0.4
要支援 1・2 認定者数	592 人	-	要介護 1・2 認定者数	735 人	-
要介護 3～5 認定者数	672 人	-	65 歳以上認定率	16.7	-0.1
2. 高齢者の状況					
単身世帯の割合	16.6%	+0.4	口腔機能低下リスク	27.4%	+1.2
高齢者夫婦のみ世帯の割合	47.4%	+0.9	閉じこもりリスク	14.4%	-1.7
虚弱リスク	6.4%	-1.8	物忘れリスク	42.6%	-1.1
運動機能の低下リスク	10.4%	-2.0	転倒リスク	27.0%	-1.7
低栄養リスク	1.4%	-0.1	IADL 低下リスク	14.2%	-0.2
3. 地域での活動					
地域づくり活動への参加意向（参加者として）	52.0%	-0.4	老人クラブ参加率	5.4%	+1.1
地域づくり活動への参加意向（企画・運営として）	33.2%	+2.0	町内会・自治会参加率	29.2%	+3.9
ボランティアのグループ参加率	16.6%	+1.7	支援・助け合い活動可能数平均	1.4 件	0.0
4. 健康感や幸福感					
主観的健康感が良い	79.8%	+2.3	趣味がある	78.8%	+2.1
幸福感がある（8点以上）	35.2%	+0.2	生きがいがある	78.6%	+0.3
5. 孤立の状況					
誰かと食事をともにする機会がない	7.8%	+0.2	看病や世話をしてくれる人がいない	4.2%	-0.7
友人との交流がない	18.0%	-0.8	昨年と比べて外出の回数が減っている	24.8%	-3.2
心配事や愚痴を聞いてくれる人がいない	3.6%	-0.4	外出を控えている	26.8%	-2.1
6. 在宅介護の状況					
主な介護者が 70 歳以上	46.1%	+7.9	訪問診療を利用していない	76.9%	+0.3
施設等への入所・入居を検討／申し込みをしている	22.1%	-8.3	主な介護者が行う介護の種類	6.1 件	+0.1
利用している介護保険以外の支援・サービスの種類の平均	0.6 件	0.0	主な介護者以外の介護者がいない	25.8%	+2.8
介護保険サービスを利用していない	31.7%	+7.0	就労継続の見通しが困難	17.9%	+5.8

(4) 日常生活圏域の課題

本市では、連区を基本の単位としたうえで、5つの日常生活圏域を設定し、アンケート結果等を踏まえた課題を整理しながら、それぞれの地域にふさわしい介護予防事業や健康づくり事業、見守り・支え合い事業等の充実を図ってきました。また、地域密着型サービス等の整備方針につなげるための地域ケア会議を、医療・介護・福祉等の関係機関や、民生委員、地域住民等と連携・協力し、情報を共有しながら開催してきました。

一方、第3期計画策定時（平成17(2005)年度）に設定された日常生活圏域の地域区分については、地域包括支援センターの担当区域と異なっていること、新しい団地ができた地域があること、高齢化が進んだ地域があること等、地域の状況に変化が生じています。そのため、こうした現状の問題を踏まえた上で、圏域設定の見直しについて検討を進めることが課題となっています。

6. 第9期計画策定の視点

国内の動向を踏まえた見直しの視点

- ・団塊の世代が75歳以上となり、支援を必要とする高齢者の増加に対応したサービスや支援事業を推進していく必要があります。
- ・国においては、中長期的な視点から、持続可能な介護サービス基盤の確保のための介護人材の確保や、デジタルトランスフォーメーション（DX）等を活用した介護サービス事業の効率化の支援等の推進が図られています。
- ・ヤングケアラー問題や8050問題等、高齢者を取り巻く問題状況の複雑化を背景として、高齢者のみを対象とした支援だけでは限界があることが示されており、住民主体の活動を含めた関係機関の連携と支え合い、助け合いの体制づくりによる地域共生社会づくりを推進していく必要があります。

本市の現状を踏まえた見直しの視点

- ・要介護認定者は今後も増加が見込まれており、要介護リスクを有する高齢者が増加している中、介護予防の取り組みがこれまで以上に重要となります。地域における介護予防活動の活性化等、取り組みの拡大に向けた支援の充実が求められます。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行が高齢者の生活に影響を及ぼしていることがアンケート調査でも確認でき、外出や交流の減少がフレイル等の心身への影響につながることを防ぐための取り組みが課題となります。
- ・支援を必要とする高齢者の孤立や、高齢者の幸福感の低下が懸念される状況が示されており、状況を注視しながら対策を検討していくことが求められます。
- ・要介護度が重くなっても、在宅での生活を継続できるサービス・支援の充実や家族介護者の負担軽減が必要です。



第9期計画策定の方向

- ・本計画期間だけではなく、中長期的な支援ニーズの見通しを踏まえ、必要な取り組みの充実を図ります。持続可能な介護保険サービス基盤の充実に向け、国の制度改正等を踏まえた見直しを行います。
- ・アンケート調査結果や各種統計情報、第8期計画の取り組み状況を踏まえ、これまで取り組んできた施策・事業について必要な評価を行い、市民ニーズに即した事業展開を図ります。